



CHAPTER 4

CDR の例

この章では、Cisco Unified Communications Manager Release システムがすべてのコール タイプに対して生成する呼詳細レコード (CDR) の例について説明します。この情報は、課金記録の生成やネットワーク分析などの後処理作業に使用できます。

システムをインストールすると、CDR はデフォルトで無効になっています。CDR は、システムの動作中にいつでも有効または無効にできます。変更内容を有効にするために Cisco Unified Communications Manager を再起動する必要はありません。システムは、数秒以内にすべての変更に対応します。

この章の構成は、次のとおりです。

- 「AAC コール」 (P.4-2)
- 「放棄呼」 (P.4-4)
- 「アドホック会議のリンク」 (P.4-6)
- 「エージェントのグリーティング コール」 (P.4-15)
- 「割り込み」 (P.4-16)
- 「コール モニタリング」 (P.4-18)
- 「コール パーク」 (P.4-19)
- 「コール ピックアップ」 (P.4-21)
- 「コールの録音」 (P.4-23)
- 「コールのセキュリティ保護ステータス」 (P.4-25)
- 「発信側の正規化」 (P.4-26)
- 「相手先が話し中または不正なコール」 (P.4-27)
- 「cBarge」 (P.4-28)
- 「クライアント識別コード (CMC)」 (P.4-29)
- 「電話会議」 (P.4-29)
- 「会議からの任意の通話者のドロップ」 (P.4-33)
- 「DTMF 方式」 (P.4-34)
- 「エンドツーエンド コール トレース」 (P.4-35)
- 「強制承認コード (FAC)」 (P.4-38)
- 「転送 (Forward) またはリダイレクトされたコール」 (P.4-38)
- 「ハント リストのサポート」 (P.4-41)
- 「H.239」 (P.4-43)

- 「iLBC コール」 (P.4-44)
- 「即時転送 (ボイスメッセージング システム宛て)」 (P.4-46)
- 「インターコム コール」 (P.4-48)
- 「IPv6 コール」 (P.4-49)
- 「レガシー コール ピックアップ」 (P.4-53)
- 「ローカル ルート グループおよび着信側変換」 (P.4-54)
- 「論理パーティショニング コール」 (P.4-55)
- 「迷惑コール」 (P.4-56)
- 「ミーティング会議」 (P.4-57)
- 「モビリティ」 (P.4-57)
- 「通常のコール (Cisco Unified IP Phone から Cisco Unified IP Phone へ)」 (P.4-61)
- 「転送での元の発信者」 (P.4-62)
- 「パーソナルアシスタント コール」 (P.4-62)
- 「優先コール (MLPP)」 (P.4-69)
- 「リダイレクション (3xx) コール」 (P.4-70)
- 「Refer コール」 (P.4-71)
- 「Replace コール」 (P.4-71)
- 「RSVP」 (P.4-72)
- 「セキュアなミーティング会議」 (P.4-73)
- 「ショート コール」 (P.4-74)
- 「[CallingPartyNumber] フィールドに URL を含む SIP コール」 (P.4-74)
- 「成功したオン ネット コール」 (P.4-75)
- 「転送されたコール」 (P.4-75)
- 「ビデオ コール」 (P.4-78)
- 「ビデオ会議コール」 (P.4-79)
- 「関連項目」 (P.4-82)
- 「関連資料」 (P.4-82)

AAC コール

Advanced Audio Coding-Low Delay (AAC-LD) は、優れた音声および音楽品質をさまざまなビットレートで提供するスーパーワイドバンドコーデックです。オーディオ品質は、ビットレートで向上します。相互に互換性のない 2 つの RTP ペイロード形式、mpeg4-generic と MP4A-LATM がサポートされます。

AAC-LD (mpeg4-generic) コールの場合、コーデック タイプ (ペイロード機能) 値 42 が使用されます。

AAC-LD (MP4A-LATM) コールの場合、サポートされるビットレートごとに別個のコーデック タイプ値が使用されます。コーデック タイプ値は 43 (128K)、44 (64K)、45 (56K)、46 (48K)、47 (32K)、および 48 (24K) です。

AAC-LD コールの CDR には、オーディオの帯域幅フィールドが追加されます。

フィールド名	定義
origMediaCap_bandwidth	この整数フィールドには、オーディオの帯域幅が格納されます。
destMediaCap_bandwidth	この整数フィールドには、オーディオの帯域幅が格納されます。

システムは、次の表に基づいて帯域幅フィールドに値を取り込みます。

コーデック	帯域幅
G711Alaw64k	64
G711Alaw56k	56
G711mu-law64k	64
G711mu-law56k	56
G722 64k	64
G722 56k	56
G722 48k	48
G7231	7
G728	16
G729	8
G729AnnexA	8
Is11172AudioCap	0
Is13818AudioCap	0
G729AnnexB	8
G729AnnexAwAnnexB	8
GSM フル レート	13
GSM ハーフ レート	7
GSM 拡張フル レート	13
ワイドバンド 256K	256
データ 64k	64
データ 56k	56
G7221 32K	32
G7221 24K	24
AAC-LD (mpeg4-generic)	256
AAC-LD (MP4A-LATM) 128K	128
AAC-LD (MP4A-LATM) 64K	64
AAC-LD (MP4A-LATM) 56K	56
AAC-LD (MP4A-LATM) 48K	48

AAC-LD (MP4A-LATM) 32K	32
AAC-LD (MP4A-LATM) 24K	24
GSM	13
iLBC	15 または 13
iSAC	32
XV150 MR 729A	8
NSE VBD 729A	8

AAC-LD (mpeg4-generic) コールの CDR の例

この例は、AAC-LD (mpeg4-generic) コーデックを使用するコールに適用されます。

フィールド名	AAC CDR
globalCallID_callId	121
origLegCallIdentifier	101
destLegCallIdentifier	102
callingPartyNumber	51234
originalCalledPartyNumber	57890
finalCalledPartyNumber	57890
lastRedirectDn	57890
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origMediaCap_payloadCapability	42
origMediaCap_Bandwidth	256
destMediaCap_payloadCapability	42
destMediaCap_Bandwidth	256

放棄呼

接続時間ゼロのコールのロギングは、オプションになります。サービス パラメータの [CDR Log Calls with Zero Duration Flag] を true に設定すると、以下のように記録されます。

- すべてのコールで CDR が生成されます。
- 電話機がオフフックになったり、オンフックに戻ったりするなど、コールが放棄された場合、各種のフィールドにデータは含まれません。この場合、[originalCalledPartyNumber]、[finalCalledPartyNumber]、これらのフィールドに関連付けられたパーティション、[destIpAddr]、および [dateTimeConnect] の各フィールドがすべて空白のままとなります。接続されていないコールはすべて、接続時間 0 秒になります。コールが放棄されると、原因コードは 0 になります。
- ユーザが電話番号をダイヤルし、接続する前にそのコールを放棄した場合、[originalCalledPartyNumber] フィールドと [finalCalledPartyNumber] フィールド、および関連付けられたパーティションには、その電話番号と、コールが展開されるパーティションが格納されず、[destIpv4v6Addr] フィールドは空白のままとなり、接続時間は 0 秒になります。



(注) 接続時間ゼロのコールを記録するには、[CDR Log Calls With Zero Duration Flag] サービス パラメータを有効にする必要があります。このパラメータによって、接続する前に放棄されたコールや、接続時間が 1 秒未満のコールの CDR ロギングが有効または無効になります。詳細については、『*CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』の「Configuring CDR Service Parameters」の項を参照してください。

放棄呼の例

1. 内線 2001 がオフフックの後、オンフックに戻ります。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	0
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	
finalCalledPartyNumber	
lastRedirectDn	
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
duration	0

2. 内線 2001 が 2309 にコールしますが、応答される前に 2001 がコールを切ります (放棄します)。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	2
origLegCallIdentifier	200
destLegCallIdentifier	201
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
duration	0

アドホック会議のリンク

高度なアドホック会議のリンク機能により、アドホック会議を別のアドホック会議に追加してすることで、単独の参加者であるかのように複数のアドホック会議をリンクすることができます。また、個々の参加者をアドホック会議に追加できる方法を使用して、別の会議をアドホック会議に追加することもできます。

高度なアドホック会議のリンク機能によって生成される CDR には、[DestConversationId] というフィールドが含まれます。このフィールドは、リンクされた会議に含まれる会議ブリッジを関連付けます。CDR の [Comment] フィールドには、会議の非コントローラによる会議参加者の追加とドロップを示す [ConfRequestorDN] タグと [ConfRequestorDeviceName] タグが追加されます。

次のシナリオで、各種 CDR の一部を示します。

- 「Join を使用した会議のリンク」(P.4-6)
- 「転送または直接転送を使用した会議のリンク」(P.4-8)
- 「リンクされた会議からの通話者の削除」(P.4-9)
- 「リンクされた会議からの通話者（コントローラ）の削除」(P.4-11)
- 「リンクされた会議の削除」(P.4-13)

Join を使用した会議のリンク

ブリッジ間のコールの方向は、Carol を含む 2 つのコールのどちらがプライマリであるかによって異なります。プライマリ コールは存続し、セカンダリ コールは会議にリダイレクトされます。

Alice が Bob にコールし、Bob は Carol と会議します（会議 1）。Dave が Carol にコールし、Ed と会議します（会議 2）。2 つの別個の会議が作成されます。Carol は両方の会議に出席します。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、および CDR4 が生成されます。

Carol が 2 つの会議を結合します。この時点で、CDR5 が生成されます。

残りの通話者が電話を切ると、会議を退出した順に残りの CDR が生成されます。

Join を使用した会議のリンクの例

フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元の コール)	CDR2 : Bob -> Carol (コンサルト コール)	CDR3 : Dave -> Carol (元の コール)	CDR4 : Dave -> Ed (コンサルト コール)	CDR5 : Carol -> 会 議ブリッジ (電話会議)	CDR6 : Dave -> 会 議ブリッジ (電話会議)
globalCallId_callId	1	2	3	4	3	3
origLegCallIdentifier	11	13	21	23	22	21
destLegCallIdentifier	12	14	22	24	25	26
callingPartyNumber	1000	1001	1003	1003	1002	1003
originalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901222	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901222	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1002	1002	1004	1003	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	4	0
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	4	0
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0	4	4

origConversationID	0	0	0	0	0	0
destConversationID	0	0	0	0	2222	2222
Comment					ConfControl erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto n-1003;Conf rDeviceName= SEP0003E333F AD1	ConfControl erDn=1003; ConfControl erDeviceNa me=SEP0003E 333FAD1;Con fRequestorD n-1003;Conf RequestorDe viceName=SE P0003E333FA D1

フィールド名	CDR7 : Ed -> 会議ブ リッジ (電話 会議)	CDR8 : Dave -> 会議 ブリッジ (電 話会議)	CDR9 : Alice -> 会議 ブリッジ (電 話会議)	CDR10 : Bob -> 会議 ブリッジ (電 話会議)	CDR11 : Carol -> 会 議ブリッジ (電話会議)
globalCallID_callId	3	1	1	1	1
origLegCallIdentifier	24	25	11	12	14
destLegCallIdentifier	27	28	15	16	17
callingPartyNumber	1004	b0029901222	1000	1001	1002
originalCalledPartyNumber	b0029901222	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901001
finalCalledPartyNumber	b0029901222	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901001
lastRedirectDn	1003	1002	1001	1001	1001
origTerminationOnBehalfOf	0	0	0	0	0
destTerminationOnBehalfOf	0	0	0	0	0
lastRedirectRedirectReason	98	98	98	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	4	4	4	4	4
origConversationID	0	2222			
destConversationID	2222	1111			
Comment	ConfControl erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1	ConfControl erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1			

転送または直接転送を使用した会議のリンク

Alice が Bob にコールし、Bob は Carol と会議します（会議 1）。Dave が Carol にコールし、Ed と会議します（会議 2）。2 つの別個の会議が作成され、Carol は両方の会議に出席します。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、および CDR4 が生成されます。

Carol が最初の会議へのコールで [Direct Transfer (DirTrfr)] ソフトキーを押します。会議 1 に Alice と Bob が出席し、会議 2 に Dave と Ed が出席します。残りの通話者が電話を切ると、会議を退出した順に、残りの CDR が生成されます。



(注)

ブリッジ間のコールの方向は、Carol を含む 2 つのコールのどちらがプライマリ コールであるかによって異なります。プライマリ コール側は、転送されたコールの発信者を表します。

転送または直接転送を使用した会議のリンクの例

フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元の コール)	CDR2 : Bob -> Carol (コンサルト コール)	CDR3 : Dave -> Carol (元の コール)	CDR4 : Dave -> Carol (コンサルト コール)	CDR5 : Carol -> 会 議ブリッジ (電話会議)	CDR6 : Carol -> 会 議ブリッジ (電話会議)
globalCallID_callId	1	2	3	4	1	3
origLegCallIdentifier	11	13	21	23	14	22
destLegCallIdentifier	12	14	22	24	17	25
callingPartyNumber	1000	1001	1003	1003	1002	1002
originalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1002	1002	1004	1001	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0	0
destConversationID	0	0	0	0	1111	2222
Comment					ConfControll erDn=1001;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FE BD;ConfReque storDn-1001; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F EBD	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1

フィールド名	CDR7 : Dave -> 会議 ブリッジ (電 話会議)	CDR8 : Ed -> 会議ブ リッジ (電話 会議)	CDR9 : 会議 ブリッジ -> 会議ブリッジ	CDR-10 : Alice -> 会議 ブリッジ (電 話会議)	CDR11 : Bob -> 会議 ブリッジ (電 話会議)
globalCallID_callId	3	3	1	1	1
origLegCallIdentifier	21	24	17	11	12
destLegCallIdentifier	26	27	28	15	16
callingPartyNumber	1003	1004	b0029901001	1000	1001
originalCalledPartyNumber	b0029901222	b0029901222	b0029901222	b0029901001	b0029901001
finalCalledPartyNumber	b0029901222	b0029901222	b0029901222	b0029901001	b0029901001
lastRedirectDn	1003	1003	1002	1001	1001
origTerminationOnBehalfOf	0	0	0	0	0
destTerminationOnBehalfOf	0	0	0	0	0
lastRedirectRedirectReason	98	98	4	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	4	4	10	4	4
origConversationID	0	0	1111	0	0
destConversationID	2222	2222	2222	1111	1111
Comment	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1	ConfControll erDn=1001;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FE BD;ConfReque storDn-1001; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F EBD	ConfControll erDn=1001;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FE BD;ConfReque storDn-1001; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F EBD

リンクされた会議からの通話者の削除

CDR は、通話者が会議を退出した順に生成されます。残りの会議で通話者が 2 人だけになると、その 2 人の通話者は直接結合されます。

Alice が Bob にコールし、Bob は Carol と会議します (会議 1)。Dave が Carol にコールし、Ed と会議します (会議 2)。2 つの別個の会議が作成され、Carol は両方の会議に参加します。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、および CDR4 が生成されます。

Carol が最初の会議へのコールで [Direct Transfer (DirTrfr)] ソフトキーを押します。会議 1 に Alice と Bob が出席し、会議 2 に Dave と Ed が出席します。会議 1 と会議 2 は一緒に転送されます。Carol が電話を切ると、会議 1 には 2 人の通話者だけが残ります。

会議に 2 人しか出席していないため、Bob と会議リンクが結合されます。この時点で、CDR7、CDR8、および CDR9 が生成されます。Bob は会議 1 のコントローラであるため、Bob が Bob と会議 2 の間のコールにおける発信者となります。残りの通話者が電話を切ると、会議を退出した順に、残りの CDR が生成されます。



(注) Bob はコントローラではなく、Bob が会議 1 を結合する前にチェーニングが発生すると、Bob と会議 2 の間で、CDR に表示されている方向とは反対の方向にコールが生成されます。

会議に最後に残った 2 人の通話者間のコールの方向は、どちらが長く会議に参加していたかによります。会議に長く参加していた通話者が、発信者となります。

リンクされた会議からの通話者の削除の例

フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元の コール)	CDR2 : Bob -> Carol (コンサルト コール)	CDR3 : Dave -> Carol (元の コール)	CDR4 : Dave -> Carol (コンサルト コール)	CDR5 : Carol -> 会 議ブリッジ (電話会議)	CDR6 : Carol -> 会 議ブリッジ (電話会議)
globalCallID_callId	1	2	3	4	1	3
origLegCallIdentifier	11	13	21	23	14	22
destLegCallIdentifier	12	14	22	24	17	25
callingPartyNumber	1000	1001	1003	1003	1002	1002
originalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1002	1002	1004	1001	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0	0
destConversationID	0	0	0	0	1111	2222
Comment					ConfControl lerDn=1001;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FE BD;ConfReque storDn-1001; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F EBD	ConfControl lerDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA BD;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1

フィールド名	CDR7 : Alice -> 会議 ブリッジ (電 話会議)	CDR8 : Bob -> 会議ブ リッジ (電話 会議)	CDR9 : 会議 ブリッジ -> 会議ブリッジ	CDR-10 : Bob -> 会議 ブリッジ -> 会議ブリッジ	CDR11 : Dave -> 会議 ブリッジ -> 会議ブリッジ	CDR12 : Ed -> 会議ブ リッジ -> 会 議ブリッジ
globalCallID_callId	1	1	3	3	3	3
origLegCallIdentifier	11	12	25	11	12	24
destLegCallIdentifier	15	16	28	15	16	27
callingPartyNumber	1000	1001	b0029901222	1000	1001	1004
originalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	b0029901222
finalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	b0029901222

lastRedirectDn	1001	1001	1002	b0029901001	1003	1003
origTerminationOnBehalfOf	16	4	4	4	0	0
destTerminationOnBehalfOf	0	4	4	4	0	0
lastRedirectRedirectReason	98	98	4	98	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	4	4	10	4	4	4
origConversationID	0	0	2222	0	0	0
destConversationID	1111	1111	1111	2222	2222	2222
Comment	ConfControll erDn=1001;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FE BD;ConfReque storDn-1001; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F EBD	ConfControll erDn=1001;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FE BD;ConfReque storDn-1001; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F EBD	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1

リンクされた会議からの通話者（コントローラ）の削除

CDR は、通話者が会議を退出した順に生成されます。残りの会議で通話者が 2 人だけになると、その 2 人の通話者は直接結合されます。

Alice が Bob にコールし、Bob は Carol と会議します（会議 1）。Dave が Carol にコールし、Ed と会議します（会議 2）。2 つの別個の会議が作成され、Carol は両方の会議に参加します。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、および CDR4 が生成されます。

Carol が最初の会議へのコールで [Direct Transfer (DirTrfr)] ソフトキーを押します。会議 1 に Alice と Bob が出席し、会議 2 に Dave と Ed が出席します。会議 1 と会議 2 は一緒に転送されます。Bob が電話を切ることで、会議 1 に接続している通話者は 2 人だけになります。

会議 1 に存在する通話者が 2 人だけであるため、Alice と会議リンクは直接結合されます。この時点で、CDR7、CDR8、および CDR9 が生成されます。Alice のほうが長く会議に参加しているため、Alice と会議 2 の間のコールの発信者は Alice になります。残りの通話者が電話を切ると、会議を退出した順に、残りの CDR が生成されます。



(注) 会議に最後に残った 2 人の通話者間のコールの方向は、どちらが長く会議に参加していたかによります。会議に長く参加していた通話者が、発信者となります。

リンクされた会議からのコントローラの削除の例

フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元の コール)	CDR2 : Bob -> Carol (コンサルト コール)	CDR3 : Dave -> Carol (元の コール)	CDR4 : Dave -> Carol (コンサルト コール)	CDR5 : Carol -> 会 議ブリッジ (電話会議)	CDR6 : Carol -> 会 議ブリッジ (電話会議)
globalCallID_callId	1	2	3	4	1	3
origLegCallIdentifier	11	13	21	23	14	22
destLegCallIdentifier	12	14	22	24	17	25

callingPartyNumber	1000	1001	1003	1003	1002	1002
originalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1002	1002	1004	1001	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0	0
destConversationID	0	0	0	0	1111	2222
Comment					ConfControllerDn=1001;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD;ConfRequestorDn=1001;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FEBD	ConfControllerDn=1003;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FAD1;ConfRequestorDn=1003;ConfRequestorDeviceName=SEP0003E333FAD1

フィールド名	CDR7 : 会議ブリッジ -> 会議ブリッジ	CDR8 : Alice -> 会議ブリッジ (電話会議)	CDR9 : 会議ブリッジ -> 会議ブリッジ	CDR-10 : Alice -> 会議ブリッジ (電話会議)	CDR11 : Dave -> 会議ブリッジ -> 会議ブリッジ	CDR12 : Ed -> 会議ブリッジ
globalCallID_callId	1	1	3	3	3	3
origLegCallIdentifier	12	11	25	11	21	24
destLegCallIdentifier	16	15	28	25	26	27
callingPartyNumber	1001	1000	b0029901222	1001	1003	1004
originalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	b0029901222
finalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1001	1002	b0029901001	1003	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	16	4	4	0	0
destTerminationOnBehalfOf	4	0	4	4	0	0
lastRedirectRedirectReason	98	98	4	98	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	4	4	10	4	4	4
origConversationID	0	0	2222	0	0	0

destConversationID	1111	1111	1111	2222	2222	2222
Comment	ConfControll erDn=1001;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FE BD;ConfReque storDn-1001; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F EBD	ConfControll erDn=1001;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FE BD;ConfReque storDn-1001; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F EBD	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1

リンクされた会議の削除

Alice が Bob にコールし、Bob は Carol と会議します (会議 1)。Dave が Carol にコールし、Ed と会議します (会議 2)。2 つの別個の会議が作成され、Carol は両方の会議に参加します。この時点で、CDR1、CDR2、CDR3、および CDR4 が生成されます。

Carol が最初の会議へのコールで [Direct Transfer (DirTrfr)] ソフトキーを押します。会議 1 に Alice と Bob が出席し、会議 2 に Dave と Ed が出席します。会議 1 と会議 2 は一緒に転送されます。

Bob が [ConfList] ソフトキーを押し、リストに Alice、Bob、および会議リンク [Conference] が表示されます。Bob が [Conference] を選択し、[Remove] ソフトキーを押します。この時点で、CDR7、CDR8、および CDR9 が生成されます。会議リンクが削除され、会議に 2 人の通話者が残ります。

残りの 2 人が結合されます。会議 1 では Alice と Bob が結合され、会議 2 では Dave と Ed が結合されます。残りの通話者が電話を切ると、会議を退出した順に、残りの CDR が生成されます。

リンクされた会議の削除の例

フィールド名	CDR1 : Alice -> Bob (元の コール)	CDR2 : Bob -> Carol (コンサルト コール)	CDR3 : Dave -> Carol (元の コール)	CDR4 : Dave -> Carol (コンサルト コール)	CDR5 : Carol -> 会 議ブリッジ (電話会議)	CDR6 : Carol -> 会 議ブリッジ (電話会議)
globalCallID_callId	1	2	3	4	1	3
origLegCallIdentifier	11	13	21	23	14	22
destLegCallIdentifier	12	14	22	24	17	25
callingPartyNumber	1000	1001	1003	1003	1002	1002
originalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1001	1002	1002	1004	b0029901001	b0029901222
lastRedirectDn	1001	1002	1002	1004	1001	1003
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	4	10	10
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	0	0	4	4
origConversationID	0	0	0	0	0	0

destConversationID	0	0	0	0	1111	2222
Comment					ConfControll erDn=1001;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FE BD;ConfReque storDn-1001; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F EBD	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1

フィールド名	CDR7 : 会議 ブリッジ -> 会議ブリッジ	CDR8 : Alice -> 会議 ブリッジ (電 話会議)	CDR9 : Bob -> 会議ブ リッジ	CDR-10 : Dave -> 会議 ブリッジ (電 話会議)	CDR11 : Ed -> 会議ブ リッジ (電話 会議)	CDR12 : Bob -> Alice
globalCallID_callId	3	1	1	3	3	3
origLegCallIdentifier	25	11	12	21	24	21
destLegCallIdentifier	28	15	16	26	27	24
callingPartyNumber	b0029901222	1000	1001	1003	1004	1003
originalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	b0029901222
finalCalledPartyNumber	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901222	b0029901222	1004
lastRedirectDn	1002	1001	1001	1003	1003	b0029901222
origTerminationOnBehalfOf	4	4	4	16	0	0
destTerminationOnBehalfOf	4	4	4	0	0	0
lastRedirectRedirectReason	4	98	98	98	98	98
lastRedirectRedirectOnBehalf Of	10	4	4	4	4	4
origConversationID	2222	0	0	0	0	0
destConversationID	1111	1111	1111	2222	2222	0
Comment	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1	ConfControll erDn=1001;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FE BD;ConfReque storDn-1001; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F EBD	ConfControll erDn=1001;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FE BD;ConfReque storDn-1001; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F EBD	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1	ConfControll erDn=1003;Co nfController DeviceName=S EP0003E333FA D1;ConfReque storDn-1003; ConfRequesto rDeviceName= SEP0003E333F AD1

フィールド名	CDR13 : Dave -> Ed
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	21

destLegCallIdentifier	24
callingPartyNumber	1003
originalCalledPartyNumber	b0029901222
finalCalledPartyNumber	1004
lastRedirectDn	b0029901222
origTerminationOnBehalfOf	0
destTerminationOnBehalfOf	0
lastRedirectRedirectReason	98
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	4
origConversationID	0
destConversationID	0
Comment	ConfControllerDn=10 03;ConfControllerDe viceName=SEP0003E33 3FAD1;ConfRequestor Dn=1003;ConfRequest orDeviceName=SEP000 3E333FAD1

エージェントのグリーティング コール

エージェントのグリーティング コール機能では、エージェント デバイスへのメディア接続に成功した後で、事前に録音したアナウンスをお客様に自動的に再生するよう、Cisco Unified Communications Manager に指示します。エージェントとお客様の両方に、エージェントのグリーティングが聞こえます。

エージェントのグリーティング コールの例

1. お客様（1001）がエージェント（1006）にコールします。
2. エージェント（1006）がコールに応答します。お客様とエージェントが接続します。
3. エージェントのグリーティング コール機能では、エージェント デバイスへのメディア接続に成功した後で、事前に録音したアナウンスをお客様に自動的に再生するよう、Cisco Unified Communications Manager に指示します。これにより、IVR（1000）がエージェントの電話機のビルトインブリッジ（BIB）に接続します。エージェントとお客様の両方に、エージェントのグリーティングが聞こえます。
4. お客様とエージェント間のコールが終了します。お客様とエージェント間のコールに関する CDR が生成されます。エージェントの電話機の BIB への IVR（1000）に関する CDR が生成されます。

エージェントの BIB への IVR に関する CDR には、コメント AgentGreeting=<agentCI> が指定されません。エージェントのグリーティング コールについては、[OnBehalfOf] フィールドが 33 に設定され、[redirectReason] コードが 752 に設定されます。

フィールド名	お客様からエージェントへの コール	IVR からエージェントの BIB へのコール
globalCallID_callId	270001	270002
origLegCallIdentifier	22980857	22980861
destLegCallIdentifier	22980858	22980862

フィールド名	お客様からエージェントへのコール	IVR からエージェントの BIB へのコール
callingPartyNumber	1001	1000
originalCalledPartyNumber	1006	b00121104001
finalCalledPartyNumber	1006	b00121104001
origCallTerminationOnBehalfOf	12	0
destCallTerminationOnBehalfOf	0	33
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0	33
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	33
origCalledPartyRedirectReason	0	752
lastRedirectRedirectReason	0	752
destConversationId	0	22980858
joinOnBehalfOf		33
comment		AgentGreeting=22980858
duration	23	9

割り込み

シェアドラインが割り込み機能を使用する場合、[origCalledPartyNumber]、[finalCalledPartyNumber]、および [lastRedirectDn] は会議ブリッジ番号「b00...」を示します。[redirectOnBehalfOf] フィールドおよび [joinOnBehalfOf] フィールドには割り込みの値 15 が反映され、[RedirectReason] フィールドには割り込み 114 が指定されます。

割り込みの例

- 40003 が 40001 にコールし、40001 が応答します。別の電話機のシェアドライン 40001 が [Barge] ソフトキーを押します。すべての通話者が会議に集まり、40003 が電話を切ります。



(注) 両方の CDR に同じ [globalCallID_callId] が設定され、[conversationID] フィールドが割り込みされたコールの CI (コール ID) にリンクします。

フィールド名	元のコールの CDR	割り込みコールの CDR
globalCallID_callId	7	7
origLegCallIdentifier	16777230	16777232
destLegCallIdentifier	16777231	16777235
callingPartyNumber	40003	40003
origCalledPartyNumber	40001	b001501001
finalCalledPartyNumber	40001	b001501001
lastRedirectDn	40001	b001501001
origCause_Value	16	0
dest_CauseValue	0	0

origCalledPartyRedirectReason	0	114
lastRedirectRedirectReason	0	114
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		15
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		15
joinOnBehalfOf		15
destConversationID	0	16777231

2. 40003 が 40001 にコールし、40001 が応答します。別の電話機のシェアドライン 40001 が [Barge] ソフトキーを押します。すべての通話者が会議に集まり、40001 が電話を切ります。



(注) 両方の CDR に同じ [globalCallID_callId] が設定され、[conversationID] フィールドが割り込みされたコールの CI (コール ID) にリンクします。

フィールド名	元のコールの CDR	割り込みコールの CDR	最終コールの CDR
globalCallID_callId	9	9	9
origLegCallIdentifier	16777236	16777238	16777236
destLegCallIdentifier	16777237	16777241	16777238
callingPartyNumber	40003	40001	40003
origCalledPartyNumber	40001	b001501001	40001
finalCalledPartyNumber	40001	b001501001	40001
lastRedirectDn	40001	b001501001	40001
origCause_Value	0	393216	16
dest_CauseValue	16	393216	0
origCalledPartyRedirectReason	0	114	0
lastRedirectRedirectReason	0	114	0
origTerminationOnBehalfOf		15	12
destTerminationOnBehalfOf	12	15	12
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		15	
joinOnBehalfOf		15	
destConversationID	0	16777237	0

3. 40003 が 40001 にコールし、40001 が応答します。別の電話機のシェアドライン 40001 が [Barge] ソフトキーを押します。すべての通話者が会議に集まり、40001 (別のシェアドラインと電話機) が [Barge] ソフトキーを押します。40003 が最初に電話を切ります。



(注) すべての CDR に [globalCallID_callId] が設定され、[conversationID] フィールドが割り込みされたコールの CI (コール ID) にリンクします。

フィールド名	元のコールの CDR	割り込みコール 1 の CDR	割り込みコール 2 の CDR
globalCallID_callId	14	14	14
origLegCallIdentifier	16777249	16777251	16777255
destLegCallIdentifier	16777250	16777254	16777258
callingPartyNumber	40003	40001	40001
origCalledPartyNumber	40001	b001501001	b001501001
finalCalledPartyNumber	40001	b001501001	b001501001
lastRedirectDn	40001	b001501001	b001501001
origCause_Value	16	0	0
dest_CauseValue	0	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	114	114
lastRedirectRedirectReason	0	114	114
origTerminationOnBehalfOf	12	15	15
destTerminationOnBehalfOf			
origRedirectOnBehalfOf		15	15
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		15	15
joinOnBehalfOf		15	15
destConversationID	0	16777250	16777251

コール モニタリング

システムは、既存の CDR フィールドを使用して、コール モニタリング機能の CDR を生成します。

モニタリング コールには、一方向メディアが存在します。一方向メディアの CDR については、コールの片側に対するメディア フィールドが空のままになります。

コール モニタリング CDR の [destConversationID] フィールドは、モニタされるコールの CDR にあるエージェント コール レッグ ID に一致し、コール モニタリング CDR とモニタされるコールの CDR をリンクします。

コール モニタリングの例

- お客様 (9728134987) がエージェント (30000) にコールし、エージェントが応答します。スーパーバイザ (40003) がコールをモニタします。モニタリング コールの [destConversationID] は、モニタされるコールの [destLegCallIdentifier] に一致します。

フィールド名	モニタされるコールの CDR	モニタリング コールの CDR
globalCallID_callId	7	10
origLegCallIdentifier	16777230	16777232
destLegCallIdentifier	16777231	16777235
callingPartyNumber	9728134987	40003

originalCalledPartyNumber	30000	b001501001
finalCalledPartyNumber	30000	b001501001
lastRedirectDn	30000	b001501001
origCause_Value	16	0
dest_CauseValue	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	370
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	370
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		28
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		28
destConversationID	0	16777231

2. エージェント (30000) がお客様 (9728134987) にコールし、お客様が応答します。スーパーバイザ (40003) がコールをモニタします。モニタリング コールの [destConversationID] は、モニタされるコールの [origLegCallIdentifier] に一致します。

フィールド名	モニタされるコールの CDR	モニタリング コールの CDR
globalCallID_callId	71	101
origLegCallIdentifier	16777299	16777932
destLegCallIdentifier	16777300	16777235
callingPartyNumber	30000	40003
originalCalledPartyNumber	9728134987	b001501002
finalCalledPartyNumber	9728134987	b001501002
lastRedirectDn	9728134987	b001501002
origCause_Value	16	0
dest_CauseValue	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	370
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	370
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		28
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		28
destConversationID	0	16777299

コール パーク

コール パークは、パークされた元のコールと、ピックアップまたは復帰されたコールに 1 つずつ、計 2 つの CDR を生成します。これらの CDR には、同じ [globalCallID_callId] が設定されます。この項では、次の CDR の例を示します。

- 「[コール パーク ピックアップ](#)」 (P.4-20)
- 「[コール パークの復帰](#)」 (P.4-20)

コール パーク ピックアップ

コールがパークされると、そのコールは分割されます。元のコールによって CDR が生成されます。この CDR の [origTerminationOnBehalfOf] フィールドと [destTerminationOnBehalfOf] フィールドには、コール パークを示す 3 が設定されます。

パークされたコールを取得する場合、ユーザはオフフックにしてパーク コードを入力します。このコールは、パークされたコールに結合します。コールをピックアップしているユーザがパークされたコールに結合されるため、システムはそのユーザをコールの発信者として扱い、パークされたユーザは宛先として扱われます。つまり、コールの [callingPartyNumber] フィールドには、そのコールをピックアップしているユーザの電話番号が格納され、[originalCalledNumber] フィールドと [finalCalledNumber] フィールドには、パークされたユーザの電話番号が格納されます。[lastRedirectDn] フィールドには、コールのピックアップに使用されるパーク コードが格納されます。[lastRedirectRedirectReason] フィールドには、コール パーク ピックアップを示す 8 が指定されます。[lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドには、コール パークを示す 3 が指定される必要があります。

コール パーク ピックアップの CDR の例

50003 が 50002 にコールします。50002 は [Park] ソフトキーを押します。50001 はパーク コード (44444) をダイヤルして、パークされたコールをピックアップします。

フィールド名	パークされた元のコールの CDR	パークをピックアップしたコールの CDR
globalCallID_callId	1	1
origLegCallIdentifier	20863957	20863961
destLegCallIdentifier	20863958	20863957
callingPartyNumber	50003	50001
originalCalledPartyNumber	50002	50003
finalCalledPartyNumber	50002	50003
lastRedirectDn	50002	44444
origCause_Value	393216	0
dest_CauseValue	393216	16
origCalledPartyRedirectReason	0	0
lastRedirectRedirectReason	0	8
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	3
origTerminationOnBehalfOf	3	0
destTerminationOnBehalfOf	3	12
joinOnBehalfOf	0	3
duration	4	60

コール パークの復帰

パークされたコールがピックアップされないと、コール パークの復帰タイマーが期限切れとなり、そのコールは着信者にリダイレクトされます。この場合、2つの CDR が生成されます。最初の CDR は前述のコール パーク ピックアップ シナリオと同じになりますが、2つ目の CDR はわずかに異なります。コール ピックアップの復帰タイマーが期限切れになると、コールは着信者にリダイレクトされます。

コールがパークされると、そのコールは分割されます。この動作により、元のコールの CDR が生成されます。この CDR の [origTerminationOnBehalfOf] フィールドと [destTerminationOnBehalfOf] フィールドは、コール パーク ピックアップ シナリオと同じく、コール パークを示す 3 に設定されます。

コール パークの復帰タイマーが期限切れになると、コールは着信者にリダイレクトされます。

[origCalledPartyRedirectOnBehalfOf] フィールドおよび [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドには、コール パークを示す 3 が指定されます。[origCalledPartyRedirectReason] フィールドにはコール パークを示す 7 が指定され、[lastRedirectRedirectReason] フィールドにはコール パークの復帰を示す 11 が指定されます。

コール パークの復帰の CDR の例

- コール パークの復帰の例：50003 が 50002 にコールします。50002 は [Park] ソフトキーを押します。パークされたコールを誰もピックアップせず、そのコールが 50002 に復帰して、50002 が応答します。

フィールド名	パークされた元のコールの CDR	復帰したコールの CDR
globalCallID_callId	2	2
origLegCallIdentifier	20863963	20863963
destLegCallIdentifier	20863964	20863967
callingPartyNumber	50003	50003
originalCalledPartyNumber	50002	50002
finalCalledPartyNumber	50002	50002
lastRedirectDn	50002	50002
origCause_Value	393216	0
dest_CauseValue	393216	16
origCalledPartyRedirectReason	0	7
lastRedirectRedirectReason	0	11
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0	3
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	3
origTerminationOnBehalfOf	3	3
destTerminationOnBehalfOf	3	12
joinOnBehalfOf	0	3
duration	7	60

コール ピックアップ

Cisco Unified Communications Manager におけるコール ピックアップには、ピックアップと自動ピックアップの 2 つのタイプがあります。この 2 つのタイプのコール ピックアップに関する CDR レコードは、わずかに異なります。

- 「ピックアップ」(P.4-22)
- 「自動ピックアップ」(P.4-22)

ピックアップ

ピックアップの CDR の例

PSTN から内線 2000、2001、および 2002 にコールが着信します。これらの内線は、同じピックアップグループに属しています。内線 2002 が、2001 で呼出音が鳴っているコールをピックアップします。内線 2002 がコールに应答し、コールは PSTN の発信者と内線 2002 の間で接続されます。[CDR Log Calls With Zero Duration Flag] サービス パラメータを有効にしている場合は、2002 のオフフックの接続時間 0 のレコードが追加で作成されます。

フィールド名	ピックアップ コールの CDR
globalCallID_callId	22
callingPartyNumber	9728131234
originalCalledPartyNumber	2001
finalCalledPartyNumber	2002
lastRedirectDn	2001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origTerminationOnBehalfOf	16
destTerminationOnBehalfOf	16
lastRedirectOnBehalfOf	16
lastRedirectReason	5
joinOnBehalfOf	16

自動ピックアップ

自動ピックアップは、自動应答を使用したコールピックアップに似た動作をします。ユーザは、最後の应答ソフトキーを押す必要はありません。コールは自動的に接続します。自動ピックアップには、2 つの CDR が生成されます。これらの CDR は、同じコール ID を持ちます。

- 元のコールに対して最初の CDR が生成されます。この CDR の [origTerminationOnBehalfOf] フィールドと [destTerminationOnBehalfOf] フィールドは、16 (ピックアップ) になります。この値は、ピックアップ機能のためにコールが終了されたことを示します。
- 2 つ目の CDR は、コールがピックアップされた後の最終コールを表します。この CDR の [lastRedirectOnBehalfOf] フィールドと [joinOnBehalfOf] フィールドは 16 (ピックアップ) に設定されます。この値は、ピックアップ機能の代わりにコールが結合されたことを示します。[lastRedirectReason] には、リダイレクト理由 5 (ピックアップ) が格納されます。

どのタイプの自動ピックアップ (自動ピックアップ、自動グループピックアップ、およびその他の自動ピックアップ) でも、自動ピックアップの CDR は同じようになります。

自動ピックアップの CDR の例

- 自動ピックアップの例:** PSTN から内線 2001 にコールが着信します。2001 と 2002 は同じピックアップグループに属しています。2002 が 2001 で呼出音が鳴っているコールをピックアップします。コールは、PSTN 発信者と 2002 の間で自動的に接続します。通話時間は 2 分です。

フィールド名	元のコールの CDR	ピックアップの CDR
globalCallID_callId	11	11
origLegCallIdentifier	12345	12345
destLegCallIdentifier	12346	12347
callingPartyNumber	9728134987	9728134987
originalCalledPartyNumber	2001	2002
finalCalledPartyNumber	2001	2002
lastRedirectDn	2001	2001
origCause_Value	393216	16
dest_CauseValue	393216	0
origTerminationOnBehalfOf	16	12
destTerminationOnBehalfOf	16	16
lastRedirectRedirectReason	0	5
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	16
joinOnBehalfOf	0	16
duration	0	120

コールの録音

システムは、既存の CDR フィールドを使用して、コールの録音機能の CDR を生成します。

録音コールには、一方向メディアが存在します。一方向メディアの CDR については、コールの片側に対するメディア フィールドが空のままになります。

コールの録音に対する 2 つ CDR の [origConversationID] フィールドは、録音コールの CDR のエージェント コール レッグ ID に一致し、コールの録音の CDR と録音されたコールの CDR をリンクします。



(注)

サービス パラメータ「CDR Log Calls with Zero Duration Flag」を true に設定すると、サーバ コール レコードが 2 件追加されます。

コールの録音の CDR の例

- お客様 (9728134987) がエージェント (30000) にコールし、エージェントが応答します。レコードの DN は 90000 です。録音機能により、録音デバイスへの 2 つの録音コールが作成され、その結果、エージェントの音声とおお客様の音声に対して 1 つずつ、計 2 つの CDR が追加されます。録音する側の CDR の [origConversationID] は、録音された側の CDR の [destLegCallIdentifier] に一致します。このシナリオでは、お客様が電話を切ります。

フィールド名	録音された側の コールの CDR	録音する側のコー ルの CDR1	録音する側のコー ルの CDR2
globalCallID_callId	7	10	11
origLegCallIdentifier	16777110	16777120	16177122
destLegCallIdentifier	16777111	16777121	16177123
callingPartyNumber	9728134987	BIB	BIB

originalCalledPartyNumber	30000	90000	90000
finalCalledPartyNumber	30000	90000	90000
lastRedirectDn	30000	90000	90000
origCause_Value	16	0	0
dest_CauseValue	0	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	354	354
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	354	354
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		27	27
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		27	27
origConversationID	0	16777111	16777111

2. エージェント (30000) がお客様 (9728134987) にコールし、お客様が応答します。レコードの DN は 90000 です。録音機能により、録音デバイスへの 2 つの録音コールが作成され、その結果、エージェントの音声とお客様の音声に対して 1 つずつ、計 2 つの CDR が追加されます。録音する側の CDR の [origConversationID] フィールドは、録音される側の CDR の [origLegCallIdentifier] フィールドに一致します。このシナリオでは、エージェントが電話を切ります。

フィールド名	録音された側の コールの CDR	録音する側のコー ルの CDR1	録音する側のコー ルの CDR2
globalCallID_callId	71	100	110
origLegCallIdentifier	16777113	16777220	16777222
destLegCallIdentifier	16777114	16777221	16777223
callingPartyNumber	30000	BIB	BIB
originalCalledPartyNumber	9728134987	90000	90000
finalCalledPartyNumber	9728134987	90000	90000
lastRedirectDn	9728134987	90000	90000
origCause_Value	16	16	16
dest_CauseValue	0	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	354	354
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	354	354
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		27	27
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		27	27
origConversationID	0	16777113	16777113

コールのセキュリティ保護ステータス

このフィールドは、コールのセキュリティステータスを識別します。このフィールドには、コール中に到達した最高レベルのセキュリティが格納されます。たとえば、コールが最初はセキュリティ保護されておらず、後で保護された状態になると、コールの別の部分のステータス値は異なる場合でも、CDR の [Secured] は 1 になります。[callSecuredStatus] フィールドは、コールのセキュリティステータスを識別します。

コールのセキュリティ保護ステータスの CDR の例

1. 暗号化されたコール：システムは、20000 と 20001 の間のコールを暗号化します。通話時間は 5 分です。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	102
origLegCallIdentifier	16777140
destLegCallIdentifier	16777141
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
callSecuredStatus	2
duration	300

2. 認証されたコール：20000 と 20001 の間のコールが認証されます（暗号化されません）。通話時間は 10 分です。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	103
origLegCallIdentifier	16777142
destLegCallIdentifier	16777143
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
callSecuredStatus	1
duration	600

発信側の正規化

この機能は、Cisco Unified Communications Manager が国際エスケープコード「+」をサポートできるようにします。この追加サポートにより、デュアルモード電話のダイヤリング機能が強化され、地理的に異なる場所にある企業へ折り返し電話する際の利便性が向上します。

現在、CDR の [callingPartyNumber]、[originalCalledPartyNumber]、[finalCalledPartyNumber]、[lastRedirectDN fields] の各フィールド、および新規のフィールドの [outpulsedCallingPartyNumber] と [outpulsedCalledPartyNumber] に「+」を含めることができます。デバイスは、発信側の正規化/ローカル化が行われる場合に限りコール制御に発信する発信者番号をレポートします。発信側の正規化/ローカル化が行われると、CDR の新規フィールド [outpulsedCallingPartyNumber] にその動作が記録されます。

発信側の正規化 CDR の例

1. Dallas の PSTN から会社の電話機にコールが発信されます。7桁の発信者番号は 500 1212 で構成され、Dallas のエリアコードは 972 と表示されます。発信側変換には +1972 が含まれます。CDR の [callingPartyNumber] フィールドには、+1 972 500 1212（グローバル形式）が格納されます。新規フィールド [outpulsedCallingPartyNumber] には、ローカル化された番号 500 1212 が格納されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	+19725001212
outpulsedCallingPartyNumber	5001212
duration	60

2. 会社の電話機から Dallas の PSTN にコールが発信されます。会社の電話機の内線は 12345 で構成されます。完全修飾番号は 9725002345 で構成されます。発信側変換で、外部電話番号マスク機能がチェックされます。CDR の [callingPartyNumber] フィールドには、+1 972 500 2345（グローバル形式）が格納されます。新規フィールド [outpulsedCallingPartyNumber] には、ローカル化された番号 9725002345 が格納されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	2
origLegCallIdentifier	102
destLegCallIdentifier	103
callingPartyNumber	+19725002345
outpulsedCallingPartyNumber	9725002345
duration	60

相手先が話し中または不正なコール

このようなコールはすべて通常のコールとして記録され、すべての関連フィールドにデータが格納されます。[origCause_value] フィールドおよび [destCause_value] フィールドには、コールが接続されない理由を示す原因コードが格納され、[Called Party IP] フィールドと [dateTimeConnect] フィールドは空白のままとなります。接続時間ゼロのコールが記録されていない場合でも、失敗したコールはすべてログに記録されます ([CdrLogCallsWithZeroDurationFlag] の設定は True または False、期間はゼロ、および [DateTimeConnect] 値はゼロ)。

失敗したコールの CDR の例

1. PSTN 番号にコールを発信しますが、相手側が話し中です (原因 17 = ユーザが話し中)。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	3
origLegCallIdentifier	300
destLegCallIdentifier	301
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
origCause_Value	0
dest_CauseValue	17
duration	0

2. PSTN 番号にコールを発信しますが、番号が存在しません (原因 1 = 使用不可番号)。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	4
origLegCallIdentifier	302
destLegCallIdentifier	303
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
origCause_Value	1
dest_CauseValue	0
duration	0

3. PSTN トランクが故障しているため、PSTN へのコールに失敗します (原因 38 = ネットワークの故障)。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	5
origLegCallIdentifier	304

destLegCallIdentifier	305
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9728134987
origCause_Value	0
dest_CauseValue	38
duration	0

cBarge

C 割り込み機能は、会議機能と非常によく似た動作をします。シェアドラインで C 割り込み機能を使用される場合、[origCalledPartyNumber]、[finalCalledPartyNumber]、および [lastRedirectDn] は会議ブリッジ番号「b00...」を示します。[redirectOnBehalfOf] フィールドおよび [joinOnBehalfOf] フィールドには、会議の値 4 が格納され、[RedirectReason] フィールドには会議を示す 98 が指定されます。

C 割り込みの CDR の例

40003 が 40001 にコールし、40001 が応答します。別の電話機の 40001（シェアドライン）が [cBarge] ボタンを押します。

フィールド名	元のコールの CDR	C 割り込みコールの CDR 1	C 割り込みコールの CDR 2	C 割り込みコールの CDR 3	最終コールの CDR
globalCallID_callId	49	49	49	49	49
origLegCallIdentifier	1677346	1677348	1677347	1677346	1677347
destLegCallIdentifier	1677347	1677353	1677351	1677352	1677346
callingPartyNumber	40003	40001	40001	40003	40001
originalCalledPartyNumber	40001	b0029901001	b0029901001	b0029901001	40003
finalCalledPartyNumber	40001	b0029901001	b0029901001	b0029901001	40003
lastRedirectDn	40001	b0029901001	40001	40001	b0029901001
origCause_Value	393216	16	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	0	393216	393216	0
origCalledPartyRedirectReason	0	98	98	98	0
lastRedirectRedirectReason	0	98	98	98	98
destTerminationOnBehalfOf	4		4	4	4
origCalledRedirectOnBehalfOf		4	4	4	
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		4	4	4	4
joinOnBehalfOf		4	4	4	4
Conversation ID	0	16777220	16777220	16777220	1
duration	60	360		360	360

Comment

元のコールの CDR

C 割り込みコールの CDR 1 ConfControllerDn=40003;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD

C 割り込みコールの CDR 2 ConfControllerDn=40003;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD

C 割り込みコールの CDR 3 ConfControllerDn=40003;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD

最終コールの CDR ConfControllerDn=40003;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD

クライアント識別コード (CMC)

CMC 機能が起動されると、システムはクライアント識別コードを CDR に書き込みます。
[clientMatterCode] フィールドには、発信者が入力したクライアント識別コードが格納されます。

CMC CDR の例

10000 が 2142364624 にコールします。ユーザはクライアント識別コードの入力を求められ、11111 と入力します。発信者がコールに応答し、10 分間通話します。

フィールド名	値
globalCallID_callId	101
origLegCallIdentifier	16777130
destLegCallIdentifier	16777131
callingPartyNumber	10000
origCalledPartyNumber	2142364624
finalCalledPartyNumber	2142364624
lastRedirectDn	2142364624
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
clientMatterCode	11111
duration	600

電話会議

会議コールは、複数のレコードが記録されます。生成される CDR レコードの数は、会議の参加者の数によって異なります。会議の参加者ごとに 1 つの CDR が存在します。つまり、最初に発信されたコールごとに 1 つの CDR、他の通話者を会議に参加させるために使用する各セットアップコールごとに 1 つの CDR、および会議に接続している最後の 2 人の通話者に 1 つの CDR がそれぞれ生成されます。3 者間のアドホック会議の場合は、6 つの CDR が存在します。つまり、元のコールに 1 つの CDR、会議に接続している通話者に 3 つの CDR、各セットアップコールごとに 1 つの CDR、および会議に最後に残った 2 人の通話者に 1 つの CDR がそれぞれ生成されます。発信コール レッグ ID と着信コール レッグ ID を確認することによって、セットアップコールを会議内の適切なコール レッグに関連付けることができます。

会議ブリッジデバイスは、Cisco Unified Communications Manager にとって特別な意味を持ち、会議ブリッジへのコールは会議ブリッジデバイスへのコールとして表示されます。「b0019901001」という形式の特殊な番号が、会議ブリッジポートを示します。すべてのコールが実際の方角に関係なく、会議ブリッジへのコールとして表示されます。ただし、セットアップコールの CDR を確認することによって、各コールの元の方角を判断できます。

会議コントローラ情報は、CDR の [comment] フィールドで確認できます。この情報の形式は、次のとおりです。

[Comment] フィールド = "ConfControllerDn=1000;ConfControllerDeviceName=SEP0003"

- 会議コントローラの DN と会議コントローラのデバイス名で、会議コントローラを一意に識別できます。シェアドラインの場合、デバイス名が必要になります。
- コールが複数の電話会議に含まれている場合、[comment] フィールドには複数の会議コントローラ情報が格納されます。会議に残った通話者が 2 人になり、うち 1 人が別の会議を始めた場合には、[comment] フィールドの最後の会議コントローラ情報によって会議コントローラが識別されます。

会議に接続しているコールログには、次の情報フィールドが含まれます。

- [finalCalledPartyNumber] フィールドには、会議ブリッジ番号「b0019901001」が格納されます。
- [origCalledPtyRedirectOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す 4 が設定されます。
 - [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す 4 が設定されます。
 - [joinOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す 4 が設定されます。
 - [Comment] フィールドは、会議コントローラを識別します。
 - [destConversationID] フィールドは、会議内のすべてのメンバーに対して同一です。このフィールドを使用して、電話会議のメンバーを識別できます。

最初に発信されたコールと、通話者を会議に参加させるために使用したすべてのセットアップコールには、次の特徴があります。

- [origCallTerminationOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す 4 が設定されます。
- [destCallTerminationOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す 4 が設定されます。

電話会議の CDR の例

- 2001 から 2309 にコールを発信します。
- 2309 が応答し、60 秒間通話します。
- 2001 が [Conference] ソフトキーを押し、3071111 をダイヤルします。
- 307111 が応答し、20 秒間通話します。2001 が [Conference] ソフトキーを押して会議を実行します。
- 会議の 3 人のメンバーが 360 秒間通話します。

3071111 が電話を切り、会議には 2001 と 2309 が残ります。会議の参加者が残り 2 人になったため、会議機能により、この 2 人は直接結合されて、さらに 55 秒間通話します。



(注)

コールが会議ブリッジに展開されるにつれ、各電話会議ログが表示されます。コールは、実際の方角に関係なく、ブリッジへのコールとして表示されます。

フィールド名	元のコールの CDR	セットアップコールの CDR	会議の CDR 1	会議の CDR 2	会議の CDR 3	最終 CDR
globalCallID_callId	1	2	1	1	1	1
origLegCallIdentifier	101	105	101	102	106	101
destLegCallIdentifier	102	106	115	116	117	102
callingPartyNumber	2001	2001	2001	2309	3071111	2001
originalCalledPartyNumber	2309	3071111	b0029901001	b0029901001	b0029901001	2309
finalCalledPartyNumber	2309	3071111	b0029901001	b0029901001	b0029901001	2309
lastRedirectDn	2001	3071111	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901001
origCause_Value	393216	0	16	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	0	393216	393216	393216	0
origCalledPartyRedirectReason	0	0	0	0	0	0
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	0	98
origTerminationOnBehalfOf	4	4	12	12	4	12
destTerminationOnBehalfOf	4	4	0	0	4	4
origCalledRedirectOnBehalfOf	0	0	4	4	4	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	4	4	4	4
joinOnBehalfOf	0	0	4	4	4	4
Conversation ID	0	0	1	1	1	0
duration	60	20	360	360	360	55

Comment

元のコールの CDR	
セットアップ コール の CDR	ConfControllerDn=2001;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEED
会議の CDR 1	ConfControllerDn=2001;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEED
会議の CDR 2	ConfControllerDn=2001;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEED
会議の CDR 3	ConfControllerDn=2001;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEED
最終 CDR	

動作要因

電話会議の CDR には、次に示す 3 つの主な動作要因が存在します。

1. 会議の参加者が 2 人に減ると、その 2 人は直接接続し、会議リソースを解放します。この変化により、電話会議に最後に残された 2 人の間のコールに対して、追加の CDR が生成されます。

たとえば、電話会議で 4 人 (Amy、Dustin、Spencer、Ethan) が接続している場合に、Ethan が電話を切り、会議ブリッジに接続している 3 人 (Amy、Dustin、Spencer) が電話会議に残るとします。Spencer が電話を切ると、電話会議には 2 人 (Amy と Dustin) だけが残ります。Amy と Dustin は直接結合され、会議リソースは解放されます。Amy と Dustin が直接結合したことで、会議に残った最後の 2 人の間に追加の CDR が作成されます。

2. CDR の [comment] フィールドに、会議コントローラ情報が追加されます。この情報で、会議コントローラを識別できます。ここで、誰が会議コントローラであるかを判断するために、コンサルトコールを確認する必要はありません。次に、この情報の例を示します。

[Comment] フィールド =
"ConfControllerDn=1000;ConfControllerDeviceName=SEP0003E333FEBD"

- 会議コントローラの DN と会議コントローラのデバイス名で、会議コントローラを一意に識別できます。シェアドラインの場合は、デバイス名が必要になります。
 - コールが複数の電話会議に含まれている場合、[comment] フィールドには複数の会議コントローラ情報が格納されます。会議に残った通話者が 2 人になり、うち 1 人が別の会議を始めた場合には、[comment] フィールドの最後の会議コントローラ情報によって会議コントローラが識別されます。
3. 参加者を追加した通話者は、要求者と呼ばれ、CDR の [comment] フィールドに表示されます。要求者情報のタグには、[ConfRequestorDn] と [ConfRequestorDeviceName] が含まれます。参加者の削除を要求した通話者は、ドロップ要求者と呼ばれ、CDR の [comment] フィールドに表示されます。ドロップ要求者情報のタグには、[DropConfRequestorDn] と [DropConRequestorDeviceName] が含まれます。

会議の一部であるコールには、それらに関して記録される複数のレコードがあります。生成される CDR の数は、会議の参加者の数によって異なります。会議内の各通話者に対して 1 つの CDR、最初に発信されたコールに対して 1 つの CDR、および他の通話者を会議に参加させるために使用された各セットアップコールに対して 1 つの CDR が存在します。したがって、3 者間のアドホック会議には、次の 6 つの CDR が存在します。

- 元のコールに対して 1 つの CDR。
- 会議に接続している通話者に対して 3 つの CDR。
- 各セットアップコールに対して 1 つの CDR。
- 会議に残った最後の 2 人の通話者に対して 1 つの CDR。

発信コール レッグ ID と着信コール レッグ ID を確認することによって、セットアップコールを会議内の適切なコール レッグに関連付けることができます。

会議ブリッジ デバイスは、Cisco Unified Communications Manager にとって特別な意味を持ちます。会議ブリッジへのコールは、会議ブリッジ デバイスへのコールとして表示されます。「b0019901001」という形式の特殊な番号が、会議ブリッジポートを示します。すべてのコールは、実際の方向とは関係なく、会議ブリッジ「への」コールとして表示されます。セットアップコールの CDR を確認することで、各コールの元の方向を判断できます。

会議に接続されたコール レッグには、次のフィールド値が設定されます。

- [finalCalledPartyNumber]: 会議ブリッジ「b0019901001」を示します。
- [origCalledPartyRedirectOnBehalfOf]: 会議 (4) に設定されます。
- [lastRedirectRedirectOnBehalfOf]: 会議 (4) に設定されます。

- [joinOnBehalfOf] : 会議 (4) に設定されます。
- [comment] : 会議コントローラを識別します。

最初に発信されたコールと、通話者を会議に参加させるために使用したすべてのセットアップ コールには、次のフィールド値が設定されます。

- [origCallTerminationOnBehalfOf] : 会議 (4) に設定されます。
- [destCallTerminationOnBehalfOf] : 会議 (4) に設定されます。

会議からの任意の通話者のドロップ

会議からの任意の通話者のドロップ機能は、新しい原因コードを除いて、その他のコールと同一に見えるコールを終了します。原因コードは、この機能が終了するコールを識別します。

会議からの任意の通話者のドロップの CDR の例

次の表に、会議に接続し、この機能によってドロップされるコールの CDR の例を示します。

Calling Party	Calling Partition	Original Called Party	Orig Cause	Original Called Partition	Called Leg	Dest Cause	Final Called Party	Final Called Partition	Last Redirect Party
2001	ACNTS	2309	0	MKTG	102	16	2309	MKTG	2001
2001	ACNTS	2309	16	MKTG	115	0	b0029901001		b0029901001
2309	ACNTS	b0029901001	0		116	128	b0029901001		b0029901001
3071111	PSTN	b0029901001	16		117	0	b0029901001		b0029901001
2001	ACNTS	2309	16	PSTN	106	0	3071111	PSTN	3071111

Orig ConversationID	OrigCall Termination OnBehalfOf	DestCall Termination OnBehalfOf	OriginalCalledPty Redirect OnBehalfOf	LastRedirect Redirect OnBehalfOf	Join OnBehalfOf	Duration
0	4	4	0	0	0	60
1	12	0	4	4	4	360
1	13	0	4	4	4	200
1	4	4	4	4	4	360
0	4	4	0	0	0	20

転送での元の発信者

この機能は、Cisco Unity または Cisco Unity Connection が開始したコール転送のコンサルト コールの発信者番号を変更します。コンサルト コールの CDR には、Cisco Unity または Cisco Unity Connection ポートが転送先にコールしているのではなく、元の発信者が転送先にコールしていることが示されます。

この機能は、Cisco Unified Communications Manager のサービス パラメータで設定する必要があります。詳細については、『*CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』の「Configuring CDR Service Parameters」の項を参照してください。

転送での元の発信者の CDR の例

4001 が 4002 にコールします。4002 がコールを 4003 に転送します。次の 3 つの CDR が生成されます。

- 最初の通話者間（4001 から 4002）のコール。
- 転送している通話者（4002）から最終転送先（4003）へのコンサルトコール。
- 転送された通話者（4001）から転送先（4003）へのコール。

コール	CallingPartyNumber	originalCalledPartyNumber
1	4001	4002
2	4002	4003
3	4001	4003



(注) CDR には [originalCallingParty] フィールドは存在しません。

DTMF 方式

これらのフィールドは、コールに使用される Dual Tone Multi-Frequency (DTMF) 方式を識別します。

DTMF の CDR の例

1. **初期設定なしの例**：このコール中に使用される DTMF 方式は、初期設定なし/ベストエフォートです。このコールは、1 分間接続します。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	200
origLegCallIdentifier	16777500
destLegCallIdentifier	16777501
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origDTMFMethod	0
destDTMFMethod	0
duration	60

2. **優先 OOB の例**：このコール中に使用される DTMF 方式は、優先 OOB です。このコールは、1 分間接続します。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	201
origLegCallIdentifier	16777502
destLegCallIdentifier	16777503
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origDTMFMethod	1
destDTMFMethod	1
duration	60

エンドツーエンド コール トレース

エンドツーエンド コール トレース機能によって、Unified CM、Cisco IOS ゲートウェイなどの複数のシスコ音声製品を経由するコールのトレースが容易になります。

エンドツーエンド コール トレースの例

1. H323：発信者 1003 が H.323 トランク経由で 1004 にコールします。

フィールド名	値
cdrRecordType	1
globalCallID_callManagerId	1
globalCallID_callId	32009
origLegCallIdentifier	19654113
dateTimeOrigination	1221263718
origNodeId	1
origSpan	0
origIpAddr	1897990154
callingPartyNumber	1004
origCause_value	16
origPrecedenceLevel	4
origMediaTransportAddress_IP	1897990154
origMediaTransportAddress_Port	19824
origMediaCap_payloadCapability	4
origMediaCap_maxFramesPerPacket	20

フィールド名	値
destLegIdentifier	19654114
destNodeId	1
destSpan	19654114
destIpAddr	424630538
originalCalledPartyNumber	1003
finalCalledPartyNumber	1003
destCause_value	0
destPrecedenceLevel	4
destMediaTransportAddress_IP	-1759442934
destMediaTransportAddress_Port	27508
destMediaCap_payloadCapability	4
destMediaCap_maxFramesPerPacket	20
dateTimeConnect	1221263720
dateTimeDisconnect	1221263721
lastRedirectDn	1003
Pkid	c8868f84-0f4e-452c-a814-bf97a7fe69fc
Duration	1
origDeviceName	SEP003094C2B08C
destDeviceName	self-loop
origCallTerminationOnBehalfOf	12
destCallTerminationOnBehalfOf	0
origDTMFMethod	3
destDTMFMethod	4
origMediaCap_Bandwidth	64
destMediaCap_Bandwidth	64
origIpv4v6Addr	10.8.33.113
destIpv4v6Addr	10.8.33.151
IncomingProtocolID	0
IncomingProtocolCallRef	
OutgoingProtocolID	2
OutgoingProtocolCallRef	0053C43F6701B18C030004010A082171

2. Q931 : 1004 が Q931 経由で 1003 にコールします。

フィールド名	値
cdrRecordType	1
globalCallID_callManagerId	1
globalCallID_callId	32008
origLegCallIdentifier	19654111
dateTimeOrigination	1221263350

フィールド名	値
origNodeId	1
origSpan	2
origIpAddr	122640650
callingPartyNumber	1004
origCause_value	0
origPrecedenceLevel	4
origMediaTransportAddress_IP	122640650
origMediaTransportAddress_Port	17218
origMediaCap_payloadCapability	4
origMediaCap_maxFramesPerPacket	20
destLegIdentifier	19654112
destNodeId	1
destSpan	0
destIpAddr	-1759442934
originalCalledPartyNumber	1003
finalCalledPartyNumber	1003
destCause_value	16
destPrecedenceLevel	4
destMediaTransportAddress_IP	-1759442934
destMediaTransportAddress_Port	23350
destMediaCap_payloadCapability	4
destMediaCap_maxFramesPerPacket	20
dateTimeConnect	1221263351
dateTimeDisconnect	1221263352
lastRedirectDn	1003
Pkid	b576bd8d-9703-4f66-ae45-64ae5c04738e
Duration	1
origDeviceName	BRI/S1/SU0/P1@nw052b-3640.cisco.com
destDeviceName	SEP003094C2D263
origCallTerminationOnBehalfOf	0
destCallTerminationOnBehalfOf	12
origDTMFMethod	1
destDTMFMethod	3
origMediaCap_Bandwidth	64
destMediaCap_Bandwidth	64
origIpv4v6Addr	10.89.79.7
destIpv4v6Addr	10.8.33.151
IncomingProtocolID	4
IncomingProtocolCallRef	01-1004-1003

フィールド名	値
OutgoingProtocolID	0
OutgoingProtocolCallRef	

強制承認コード (FAC)

FAC 機能が起動されると、承認の説明とレベルが CDR に書き込まれます。セキュリティ上の理由から、実際の承認コードは CDR に書き込まれません。

- [authCodeDescription] フィールドには、承認コードの説明が格納されます。
- [authorizationLevel] フィールドには、承認コードに関連付けられた承認のレベルが格納されます。

FAC の CDR の例

45000 が 9728134987 にコールします。ユーザは、承認コードの入力を求められ、12345 と入力します。FAC コード 12345 は、レベル 1 として Legal1 という名前で設定されています。発信者がコールに応答し、2 分間通話します。

フィールド名	値
globalCallID_callId	100
origLegCallIdentifier	16777123
destLegCallIdentifier	16777124
callingPartyNumber	45000
origCalledPartyNumber	9728134987
finalCalledPartyNumber	9728134987
lastRedirectDn	9728134987
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
authCodeDescription	Legal1
authorizationLevel	1
duration	120

転送 (Forward) またはリダイレクトされたコール

転送 (Forward) されたコールは、1 つの CDR を生成し、発信者、元の着信者番号、最後にリダイレクトした番号、最終的な着信者番号、および関連付けられたパーティションを示します。コールが 3 回以上転送 (Forward) された場合、中間の転送者は CDR に記録されません。

コールの転送 (Forward) は、複数の条件 (常時、話し中、および応答なし) で発生します。コールが転送 (Forward) される状況は、CDR に記録されません。

転送 (Forward) されたコールの CDR は、[originalCalledPartyNumber] フィールドと [originalCalledPartyNumberPartition] フィールドを除いて、通常のコールの CDR に一致します。これらのフィールドには、元の発信者が最初にダイヤルした宛先の電話番号とパーティションが格納されません。コールが転送 (Forward) された場合は、[finalCalledPartyNumber] フィールドと [finalCalledPartyNumberPartition] フィールドが変わり、コールの最終的な宛先の電話番号とパーティションが格納されます。

また、コールが転送 (Forward) されると、[lastRedirectDn] フィールドと [lastRedirectDnPartition] フィールドには、コールを転送 (Forward) またはリダイレクトした最後の電話機の電話番号とパーティションが格納されます。

コール転送 (Forward) では、コールの転送 (Forward) にリダイレクト コール プリミティブが使用されます。リダイレクト コール プリミティブを使用する機能では、CDR は同じになります。次のリストに、転送 (Forward) されたコールに関する重要な CDR フィールドの一部を示します。

- [originalCalledPartyNumber] には、元の着信者番号が格納されます。
- [finalCalledPartyNumber] は、コールに回答した番号を示します。
- [lastRedirectDn] フィールドは、最後のリダイレクトを実行した番号を示します。
- [origCalledPartyRedirectReason] は、コールが最初にリダイレクトされた理由を示します。コール転送 (Forward) の場合、このフィールドには**話中転送 (Call Forward Busy) (1)**、**無応答時転送 (Call Forward No Answer) (2)**、**すべてのコールの転送 (Call Forward All) (15)**を設定できます。
- [lastRedirectRedirectReason] は、コールが最後にリダイレクトされた理由を示します。コール転送 (Forward) の場合、このフィールドには**話中転送 (Call Forward Busy) (1)**、**無応答時転送 (Call Forward No Answer) (2)**、**すべてのコールの転送 (Call Forward All) (15)**を設定できます。
- [origCalledPartyRedirectOnBehalfOf] フィールドは、最初のリダイレクトでコールをリダイレクトした機能を識別します。コール転送 (Forward) の場合、このフィールドには**5 (コール転送 (Forward))**が指定されます。
- [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドは、最後のリダイレクトでコールをリダイレクトした機能を識別します。コール転送 (Forward) の場合、このフィールドには**5 (コール転送 (Forward))**が指定されます。

転送 (Forward) されたコールの CDR の例

1. **CFA** : PSTN から内線 2001 にコールが着信し、このコールは 2309 に転送 (Forward) され (CFA)、そこで応答されます。通話時間は 2 分間です。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	12345
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	102
callingPartyNumber	9728134987
originalCalledPartyNumber	2001
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origCalledPartyRedirectReason	15
lastRedirectRedirectReason	15
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	5
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	5
duration	120

2. 複数ホップの CFA および CFNA : PSTN から内線 1000 へのコールを着信します。このコールは 2000 に転送 (Forward) されてから (CFA) ボイスメッセージング システム (6000) に転送 (Forward) されます (CFNA)。そこで発信者がメッセージを残します。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	12346
origLegCallIdentifier	102
destLegCallIdentifier	105
callingPartyNumber	9728134987
originalCalledPartyNumber	1000
finalCalledPartyNumber	6000
lastRedirectDn	2000
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origCalledPartyRedirectReason	15
lastRedirectRedirectReason	2
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	5
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	5
duration	15

3. 複数ホップの CFNA および CFB : PSTN から内線 4444 へのコールを着信します。このコールは 5555 に転送 (Forward) されてから (CFNA)、6666 に転送 (Forward) されます (CFB)。そこで応答され、30 秒間通話が行われます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	12347
origLegCallIdentifier	106
destLegCallIdentifier	108
callingPartyNumber	9728134987
originalCalledPartyNumber	4444
finalCalledPartyNumber	6666
lastRedirectDn	5555
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
origCalledPartyRedirectReason	2
lastRedirectRedirectReason	1
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	5
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	5
duration	30

ハント リストのサポート

ハント リストの例

1. 応答されたコール：この例では、コールはハント リストに入り、ハント リストのメンバーがコールに応答します。
 - Cisco Unified IP Phone 3001、3002、3003、および 3004 がハント リストに含まれています。電話機の表示名はそれぞれ、3001-Name、3002-Name、3003-Name、および 3004-Name です。
 - ハント パイロット 2000 がハント リストに関連付けられています。ハント パイロット 2000 には、2000-Name という表示名が設定されています。
 - 電話機 1000 がハント パイロット 2000 にコールし、コールは 3001 にオファーされて応答されます。

CDR の [finalCalledPartyNumber] フィールドのサービス パラメータ [Show Line Group Member DN] が True に設定されていると、次に示す表の値が CDR に表示されます。

フィールド名	CDR
callingPartyNumber	1000
callingPartyNumberPartition	
originalCalledPartyNumber	2000
originalCalledPartyNumberPartition	
finalCalledPartyNumber	3001
finalCalledPartyNumberPartition	
origDeviceName	Phone 1000
destDeviceName	Phone 3001
huntPilotDN	2000
huntPilotPartition	

CDR の [finalCalledPartyNumber] フィールドのサービス パラメータ [Show Line Group Member DN] が False に設定されていると、次に示す表の値が CDR に表示されません。

フィールド名	CDR
callingPartyNumber	1000
callingPartyNumberPartition	
originalCalledPartyNumber	2000
originalCalledPartyNumberPartition	
finalCalledPartyNumber	2000
finalCalledPartyNumberPartition	
origDeviceName	Phone 1000
destDeviceName	Phone 3001
huntPilotDN	2000
huntPilotPartition	

2. **放棄された、または失敗したコール**：この例では、コールはハント リストに入り、ハント リストのメンバーがコールを放棄するか、コールに失敗します。
- Cisco Unified IP Phone 3001、3002、3003、および 3004 がハント リストに含まれています。
 - ハント パイロット 2000 がハント リストに関連付けられています。
 - 電話機 1000 がハント パイロット 2000 にコールし、コールは 3001 にオファーされて放棄されます。CDR の [finalCalledPartyNumber] フィールドのサービス パラメータ [Show Line Group Member DN] が True に設定されていると、次に示す表の値が CDR に表示されます。

フィールド名	CDR
callingPartyNumber	1000
callingPartyNumberPartition	
originalCalledPartyNumber	2000
originalCalledPartyNumberPartition	
finalCalledPartyNumber	3001
finalCalledPartyNumberPartition	
origDeviceName	Phone 1000
destDeviceName	Phone 3001
huntPilotDN	
huntPilotPartition	
calledPartyPatternUsage	7

コールが応答されていないため、CDR の [huntPilotDN] は使用できません。[PatternUsage] (7 = PATTERN_HUNT_PILOT) フィールドが 7 に設定され、コールがハント パイロットに発信されたことを示します。このサービス パラメータが有効である場合、[finalCalledPartyNumber] フィールドにメンバー ハントの DN が示され、[originalCalledPartyNumber] フィールドにハント パイロットの DN が示されます。

CDR の [finalCalledPartyNumber] フィールドのサービス パラメータ [Show Line Group Member DN] が False に設定されていると、次に示す表の値が CDR に表示されます。

フィールド名	CDR
callingPartyNumber	1000
callingPartyNumberPartition	
originalCalledPartyNumber	2000
originalCalledPartyNumberPartition	
finalCalledPartyNumber	2000
finalCalledPartyNumberPartition	
origDeviceName	Phone 1000
destDeviceName	Phone 3001
huntPilotDN	

huntPilotPartition
calledPartyPatternUsage 7

コールが応答されていないため、CDR の [huntPilotDN] は使用できません。[PatternUsage] (7 = PATTERN_HUNT_PILOT) フィールドが 7 に設定され、コールがハントパイロットに発信されたことを示します。このサービスパラメータが無効であると、[finalCalledPartyNumber] フィールドにメンバーハントの DN が示されます。

H.239

Cisco Unified Communications Manager は、H.239 をサポートします。この機能は、H.320 ベースシステムで最大 2 つのビデオチャンネルを使用し、個々のチャンネルに「presentation」または「live」のロールを示すラベルを表示する手順を定義します。この手順には、チャンネルと、コールにおけるチャンネルコンテンツのロールを処理するための要件が示されています。ロールラベルは、H.320 および H.245 シグナリングベースシステムに適用されます。

いくつかの新しい CDR フィールドが、発信元デバイスと宛先デバイスのための 2 番目のビデオチャンネルをサポートします。次の CDR は、これらの新しいフィールドの例を示しています。CDR フィールドの詳細については、表 5-1 (P.5-1) を参照してください。

H.239 の CDR の例

A と B が Terminal Capability Set (TCS) で H.239 機能を宣言し、一方または両方のエンドポイントが受信チャンネルを起動して、プレゼンテーションまたはビデオフィードに対応する H.239 メカニズムの拡張ビデオチャンネルを設定すると、ビデオコールの既存のフィールドに加え、新しい CDR フィールドが CDR に表示されます。

発信者 51234 が着信者 57890 にコールします。103 が H.264、187962284 が 172.19.52.11、288625580 が 172.19.52.17、および 352 が 352K とします。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	121
origLegCallIdentifier	101
destLegCallIdentifier	102
callingPartyNumber	51234
originalCalledPartyNumber	57890
finalCalledPartyNumber	57890
lastRedirectDn	57890
origCause_Value	0
destCause_Value	16
origVideoCap_Codec	103
origVideoCap_Bandwidth	352
origVideoCap_Resolution	0
origVideoTransportAddress_IP	187962284

origVideoTransportAddress_Port	2406
destVideoCap_Codec	103
destVideoCap_Bandwidth	352
destVideoCap_Resolution	0
destVideoTransportAddress_IP	288625580
destVideoTransportAddress_Port	2328
origVideoCap_Codec_Channel2	103
origVideoCap_Bandwidth_Channel2	352
origVideoCap_Resolution_Channel2	0
origVideoTransportAddress_IP_Channel2	187962284
origVideoTransportAddress_Port_Channel2	2410
origVideoChannel_Role_Channel2	0
destVideoCap_Codec_Channel2	103
destVideoCap_Bandwidth_Channel2	352
destVideoCap_Resolution_Channel2	0
destVideoTransportAddress_IP_Channel2	288625580
destVideoTransportAddress_Port_Channel2	2330
destVideoChannel_Role_Channel2	0

iLBC コール

Internet Low Bit Rate Codec (iLBC) は、フレームが失われるロスの大いネットワークで、音声品質の劣化に対応します。iLBC コールに対して、コーデックは `Media_Payload_ILBC = 86` を指定します。

iLBC コールの CDR には、オーディオ帯域幅のフィールドが追加されます。

フィールド名	定義
origMediaCap_bandwidth	この整数フィールドには、オーディオの帯域幅が格納されます。
destMediaCap_bandwidth	この整数フィールドには、オーディオの帯域幅が格納されます。

システムは、次の表に基づいて帯域幅フィールドに値を取り込みます。

コーデック	帯域幅
G711Alaw64k	64
G711Alaw56k	56
G711mu-law64k	64
G711mu-law56k	56
G722 64k	64
G722 56k	56
G722 48k	48
G7231	7
G728	16
G729	8
G729AnnexA	8
Is11172AudioCap	0
Is13818AudioCap	0
G729AnnexB	8
G729AnnexAwAnnexB	8
GSM フル レート	13
GSM ハーフ レート	7
GSM 拡張フル レート	13
ワイドバンド 256K	256
データ 64k	64
データ 56k	56
G7221 32K	32
G7221 24K	24
AAC-LD (mpeg4-generic)	256
AAC-LD (MP4A-LATM) 128K	128
AAC-LD (MP4A-LATM) 64K	64
AAC-LD (MP4A-LATM) 56K	56
AAC-LD (MP4A-LATM) 48K	48
AAC-LD (MP4A-LATM) 32K	32
AAC-LD (MP4A-LATM) 24K	24
GSM	13
iLBC	15 または 13
iSAC	32
XV150 MR 729A	8
NSE VBD 729A	8

iLBC コールの CDR の例

この例は、iLBC コーデックを使用するコールに適用されます。

フィールド名	iLBC の CDR
globalCallID_callId	121
origLegCallIdentifier	101
destLegCallIdentifier	102
callingPartyNumber	51234
originalCalledPartyNumber	57890
finalCalledPartyNumber	57890
lastRedirectDn	57890
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origMediaCap_payloadCapability	86
origMediaCap_Bandwidth	15
destMediaCap_payloadCapability	86
destMediaCap_Bandwidth	15

即時転送（ボイスメッセージング システム宛て）

即時転送 (IDivert) は、次の 3 つのコール状態で起動します。

- IDivert 機能は、着信コールの呼び出し中に起動できます。呼び出しに対する CDR は、コール転送の場合とよく似ていますが、[origCalledPartyRedirectOnBehalfOf] フィールドと [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドは即時転送を示す 14 になります。
- IDivert 機能は、コールの接続中または保留中に起動できます。これらのシナリオでは、2 つの CDR が生成されます。これらの CDR の [globalCallID_CallId] フィールドは同じになります。最初の CDR は元の接続に適用され、2 番目の CDR はボイスメッセージング システムにリダイレクトされたコールに適用されます。最初のコールでは、[origTerminationOnBehalfOf] フィールドと [destTerminationOnBehalfOf] フィールドに即時転送を示す 14 が設定されます。
- ボイスメッセージング システムにリダイレクトされたコールでは、[origCalledPartyRedirectOnBehalfOf] フィールドと [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドに即時転送を示す 14 が設定されます。

IDivert CDR の例

1. 呼び出し中の IDivert : 40003 が 40001 にコールし、40001 の呼び出し中に 40001 が [IDivert] ボタンを押します。コールはボイスメッセージング システム 40000 に転送されます。



(注) コールが呼び出し状態で IDivert によってコールがリダイレクトされた場合、生成される CDR は 1 つだけです。

フィールド名	元のコールの CDR
globalCallID_callId	37
origLegCallIdentifier	16777327
destLegCallIdentifier	16777329
callingPartyNumber	40003
origCalledPartyNumber	40001
finalCalledPartyNumber	40000
lastRedirectDn	40001
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
origCalledPartyRedirectReason	50
lastRedirectRedirectReason	50
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	14
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	14
joinOnBehalfOf	14

2. 接続中の **IDivert** : 40003 が 40001 にコールし、40001 がそのコールに応答します。40001 は、発信者をボイスメッセージング システムに転送することに決め、[IDivert] ソフトキーを押します。40003 はボイスメッセージング システム 40000 に転送されます。

コールはリダイレクトの前に接続しているため、最初に接続したコールと、ボイスメッセージング システムに転送されたコールに 1 つずつ、計 2 つの CDR が生成されます。

フィールド名	最初に接続したコールの CDR	転送されたコールの CDR
globalCallID_callId	38	38
origLegCallIdentifier	16777330	16777330
destLegCallIdentifier	16777331	16777332
callingPartyNumber	40003	40003
origCalledPartyNumber	40001	40001
finalCalledPartyNumber	40001	40000
lastRedirectDn	40001	40001
origCause_Value	0	16
dest_CauseValue	0	0
origCalledPartyRedirectReason	0	50
lastRedirectRedirectReason	0	50
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf		14
lastRedirectRedirectOnBehalfOf		14
origTerminationOnBehalfOf	14	14
destTerminationOnBehalfOf	14	12
joinOnBehalfOf		14

インターコム コール

インターコム機能は、一方向オーディオを提供します。したがって、CDR には一方向オーディオが反映されます。応答インターコムでは、双方向オーディオが存在し、CDR は双方向オーディオを反映します。

インターコム機能にはパーティション（インターコム パーティション）が必要であり、インターコム コールを識別するために既存の CDR のパーティション フィールドが使用されます。

次の 2 つの例は、インターコムの CDR を示しています。

インターコムの CDR の例

1. **ウィスパー インターコム**：電話機 20000 がインターコムを起動します。設定されたインターコム パーティション名は、「Intercom」です。

フィールド名	元のコールの CDR
globalCallID_callId	1111000
origLegCallIdentifier	21822467
destLegCallIdentifier	21822468
callingPartyNumber	20000
originalCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
origMediaTransportAddress_IP	0
origMediaTransportAddress_Port	0
destMediaTransportAddress_IP	-47446006
destMediaTransportAddress_Port	28480
origCalledPartyNumberPartition	Intercom
callingPartyNumberPartition	Intercom
finalCalledPartyNumberPartition	Intercom
duration	5

2. **応答インターコム**：電話機 20000 がインターコム ボタンを押します。20001 が応答を開始し、20000 と通話します。設定されたインターコム パーティション名は、「Intercom」です。

フィールド名	元のコールの CDR
globalCallID_callId	1111000
origLegCallIdentifier	21822469
destLegCallIdentifier	21822470
callingPartyNumber	20000

originalCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
origMediaTransportAddress_IP	-131332086
origMediaTransportAddress_Port	29458
destMediaTransportAddress_IP	-47446006
destMediaTransportAddress_Port	29164
origCalledPartyNumberPartition	Intercom
callingPartyNumberPartition	Intercom
finalCalledPartyNumberPartition	Intercom
duration	5

IPv6 コール

このリリースの Cisco Unified Communications Manager は、IPv6 をサポートします。この機能に対する CDR には、次に示す 2 つの新しいフィールドがあります。

- [origIpv4v6Addr] : このフィールドは、コール シグナリングを開始するデバイスの IP アドレスを識別します。コールに使用される IP アドレス タイプによって、フィールドは IPv4 形式と IPv6 形式のいずれかになります。
- [destIpv4v6Addr] : このフィールドは、コール シグナリングを終了するデバイスの IP アドレスを識別します。コールに使用される IP アドレス タイプによって、フィールドは IPv4 形式と IPv6 形式のいずれかになります。

次の CDR の例は、IPv6 形式で成功したコールと失敗したコールを示しています。

成功したコール

1. A と B が通話し、A が電話を切ります。A が v4_only として設定され、B も v4_only として設定されています。新しいフィールド [origIpv4v6Addr] と [destIpv4v6Addr] にそれぞれ v4 アドレス形式のデータが入力されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origIpAddr	352737802
destIpAddr	1878566390
origIpv4v6Addr	10.90.6.21

フィールド名	値
destIpv4v6Addr	10.90.7.144
duration	60

2. A と B が通話し、A が電話を切ります。A が v6_only として設定され、B も v6_only として設定されています。新しいフィールド [origIpv4v6Addr] と [destIpv4v6Addr] にそれぞれ v6 アドレス形式のデータが入力されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origIpAddr	0
destIpAddr	0
origIpv4v6Addr	2001:fece:ba23:cd1f:dcbl:1010:9234:40881
destIpv4v6Addr	2001:420:1e00:e5:217:8ff:fe5c:2fa9
duration	60

3. A と B が通話し、A が電話を切ります。A は v4_only として設定され、B は v6_only として設定されています。新しいフィールド [origIpv4v6Addr] と [destIpv4v6Addr] にそれぞれ v4 と v6 のアドレス形式のデータが入力されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origIpAddr	352737802
destIpAddr	0
origIpv4v6Addr	10.90.6.21
destIpv4v6Addr	2001:420:1e00:e5:217:8ff:fe5c:2fa9
duration	60

4. A と B が通話し、A が電話を切ります。A は v4_v6 として設定され、B は v4_only として設定されています。この場合、メディアは v4 をネゴシエートします。新しいフィールド [origIpv4v6Addr] と [destIpv4v6Addr] にそれぞれ v4 アドレス形式のデータが入力されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origIpAddr	352737802
destIpAddr	-1878566390
origIpv4v6Addr	10.90.6.21
destIpv4v6Addr	10.90.7.144
duration	60

5. A と B が通話し、A が電話を切ります。A は v4_v6 として設定され、B は v6_only として設定されています。この場合、メディアは v6 をネゴシエートします。新しいフィールド [origIpv4v6Addr] と [destIpv4v6Addr] にそれぞれ v6 アドレス形式のデータが入力されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origIpAddr	352737802
destIpAddr	0
origIpv4v6Addr	2001:feed:ba23:cd1f:dcbl:1010:9234:4088
destIpv4v6Addr	2001:420:1e00:e5:217:8ff:fe5c:2fa9
duration	60

失敗したコール

1. AがBをコールし、Aがコールを放棄します。Aはv4_onlyとして設定され、Bはv6_onlyとして設定されています。新しいフィールド[origIpv4v6Addr]に、v4アドレス形式のデータが入力されます。新しいフィールド[destIpv4v6Addr]にはデータは入力されません。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origIpAddr	352737802
destIpAddr	-569419254
origIpv4v6Addr	10.90.15.222
destIpv4v6Addr	
duration	0

2. AがBにコールを発信し、そのコールが失敗します。Aはv6_onlyとして設定され、Bはv4_v6として設定されています。新しいフィールド[origIpv4v6Addr]に、v6アドレス形式のデータが入力されます。この場合、新しいフィールド[destIpv4v6Addr]にはデータは入力されません。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origIpAddr	0
destIpAddr	0
origIpv4v6Addr	2001:fece:ba23:cd1f:dcb1:1010:9234:4088
destIpv4v6Addr	
duration	0

レガシー コール ピックアップ

レガシー コール ピックアップ コールは、転送されたコールに似た動作をします。レガシー コール ピックアップでは、コール転送と同様にリダイレクト コール制御プリミティブが使用されます。次のリストは、レガシー コール ピックアップの重要な CDR フィールドの一部を示しています。

- [originalCalledPartyNumber] フィールドには、元の着信者番号が格納されます。
- [finalCalledPartyNumber] フィールドには、コールをピックアップした通話者の番号が指定されます。
- [lastRedirectDn] フィールドには、コールがピックアップされたときに呼び出していた番号が指定されます。
- [origCalledPartyRedirectReason] フィールドには、コールが最初にリダイレクトされた理由が指定されます。コール ピックアップ コールの場合、このフィールドに**コール ピックアップの値 5**が格納されます。
- [lastRedirectRedirectReason] フィールドには、コールが最後にリダイレクトされた理由が指定されます。コール ピックアップの場合、このフィールドに**コール ピックアップの値 5**が格納されます。
- [origCalledPartyRedirectOnBehalfOf] フィールドは、最初のリダイレクトでコールをリダイレクトした機能を識別します。コール ピックアップの場合、このフィールドに**ピックアップの値 16**が指定されます。
- [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドは、最後のリダイレクトでコールをリダイレクトした機能を識別します。コール ピックアップの場合、このフィールドに**ピックアップの値 16**が指定されます。

レガシー コール ピックアップの CDR の例

PSTN から内線 2001 にコールします。2001 と 2002 は同じピックアップ グループに属しています。2002 が、2001 で呼出音が鳴っているコールをピックアップします。2002 がコールに応答し、コールは PSTN の発信者と内線 2002 の間で接続されます。通話時間は 2 分です。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	22
origLegCallIdentifier	1
destLegCallIdentifier	2
callingPartyNumber	9728134987
originalCalledPartyNumber	2001
finalCalledPartyNumber	2002
lastRedirectDn	2001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origCalledPartyRedirectReason	0
lastRedirectRedirectReason	5
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	16
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	16
duration	120

ローカル ルート グループおよび着信側変換

このリリースの Cisco Unified Communications Manager は、新規機能のローカル ルート グループと着信側変換をサポートします。デバイスは、着信側変換が行われた場合のみ、着信者番号がコール制御にアウトパルスされたことを報告します。この動作は、CDR の新しいフィールド [outpulsedCalledPartyNumber] に記録されます。

ローカル ルート グループと着信側の正規化の CDR の例

Dallas にある会社の電話機からコールが発信されます。着信番号には 9.5551212 が指定されます。

変換により、着信者番号では、発信者がダイヤルした番号が受信され、ドットの前が廃棄されて、プレフィクス +1 214 が追加されます。

CDR の [finalCalledPartyNumber] は、グローバルに一意の E.164 文字列 +12145551212 で構成されます。

San Jose のゲートウェイが選択された場合、グローバル文字列 +1 214 555 1212 は 12145551212 に変換され、Dallas のゲートウェイが選択された場合は、2145551212 に変換されます。

デバイスは、このグローバル文字列を [outpulsedCalledPartyNumber] としてコール制御に戻し、その値が CDR に記録されます。

San Jose のゲートウェイが選択された場合、次の CDR が作成されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	+12145551212
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
duration	60
outpulsedCalledPartyNumber	12145551212

Dallas のゲートウェイが選択された場合、次の CDR が作成されます。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	+12145551212
finalCalledPartyNumber	+12145551212
lastRedirectDn	+12145551212

フィールド名	値
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
duration	60
outpulsedCalledPartyNumber	2145551212

論理パーティショニング コール

Telecom Regulatory Authority of India (TRAI) では、企業データ ネットワークおよび PSTN ネットワーク経由の音声トラフィックを区別することを義務付けています。PSTN ゲートウェイを通過するコールが地理的に別の場所（地理位置情報）にある VoIP 電話または VoIP PSTN ゲートウェイに直接接続する可能性がない限り、論理パーティショニング機能を使用することで、1つのシステムで両タイプのコールを確実にサポートできます。

コール終了原因コード CCM_SIP_424_BAD_LOCATION_INFO の CDR の例

クラスタ 1 からクラスタ 2 に SIP トランク コールが発信されます。このコールには地理位置情報ヘッダーが含まれますが、XML の場所は含まれていません。クラスタ 2 が SIP ステータス コード 424（不正な位置情報（10 進数 = 419430421））のコールを解放します。

Cisco Unified Communications Manager 上の SIP トランクによる位置情報に誤りがあったためにクリアされたコールに対して、原因コード CCM_SIP_424_BAD_LOCATION_INFO が記録されます。次の理由から地理位置情報に誤りがあった場合、SIP トランクのリモートエンドポイントから SIP ステータス コード 424 が送信される可能性があります。

- 地理位置情報ヘッダーに PIDF-LO が含まれているが、メッセージ本文はこの情報を伝達していない。
- 地理位置情報ヘッダーに、URL を参照する CID ヘッダーが含まれているが、同じ URL を持つ、対応するコンテンツ IP ヘッダーが存在しない。
- 地理位置情報ヘッダーに、CID ヘッダー以外の URL（つまり、SIP または SIPS URL）がある。

その他のコール終了原因コードの詳細については、「[CDR の例](#)」の章を参照してください。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	9900
finalCalledPartyNumber	9900
lastRedirectDn	9900
origCause_Value	0
dest_CauseValue	419430421
duration	0

コール終了原因コード 503 の CDR の例

クラスタ 1 からのコール 82291002 が PSTN 41549901 に転送されます。クラスタ 2 の DN 89224001 からクラスタ 1 の DN 82291002 へのコールが発生します。論理パーティショニングで `dest_CauseValue` がコール終了原因コード `CCM_SIP_503_SERVICE_UNAVAIL_SER_OPTION_NOAVAIL` (10 進数値 -1493172161) を示したため、コールが拒否されます。

原因コード `CCM_SIP_503_SERVICE_UNAVAIL_SER_OPTION_NOAVAIL` は、コールの確立フェーズ (基本コール、コール転送、コールピックアップ、ミーティング会議など) での制限付き論理パーティショニングポリシーチェックによってクリアされたコールに対して記録されます。その他のコール終了原因コードの詳細については、「[CDR の例](#)」の章を参照してください。

フィールド名	値
<code>globalCallID_callId</code>	1
<code>origLegCallIdentifier</code>	100
<code>destLegCallIdentifier</code>	101
<code>callingPartyNumber</code>	89224001
<code>originalCalledPartyNumber</code>	82291002
<code>finalCalledPartyNumber</code>	41549901
<code>lastRedirectDn</code>	82291002
<code>origCause_Value</code>	0
<code>dest_CauseValue</code>	-1493172161
<code>duration</code>	0

迷惑コール

コールが迷惑コールとして識別された場合 (ボタン押下)、ローカル Cisco Unified Communications Manager ネットワークによってコールにフラグが設定されます。迷惑コールのフラグの設定には、`[Comment]` フィールドが使用されます。

迷惑コールの CDR の例

次の表に、迷惑コールのマークが付けられたカスタマー コールの CDR の例を示します。

Calling Party	Calling Partition	Original Called Party	Original Called Partition	Orig Cause	Dest Cause	Comment
9728552001	CUST	5555	ACNTS	0	16	"callFlag=MALICIOUS"

ミーミー会議

ミーミー会議は、あらかじめ決められた時間に複数の通話者が、個別に会議ブリッジにダイヤルすることで行われます。

シスコのセキュア会議機能では、既存の [callSecuredStatus] フィールドを使用して、コールが到達した最大のセキュリティステータスを表示します。ミーミー会議の場合、会議への参加を試みたものの、ミーミー会議のセキュリティレベルに達していないコールは、終了原因 = 58（ベアラ機能は現在使用不可）でクリアされます。

ミーミー会議の CDR の例

次の表に、以下のシナリオの CDR の例を示します。5001 がダイヤルイン番号を指定します。会議ブリッジデバイスは Cisco Unified Communications Manager にとって特別な意味があり、会議ブリッジへのコールは転送コールとして表示されます。つまり、ユーザ A があらかじめ決められた番号（5001）をダイヤルし、コールは会議ブリッジポートに転送されます。会議ブリッジポートは、「b0019901001」という形式の特殊な番号で表示されます。

- ユーザ A（2001）が電話番号 5001 を使用してミーミー会議ブリッジにコールします。
- ユーザ B（2002）が電話番号 5001 を使用してミーミー会議ブリッジにコールします。
- ユーザ C（2003）が電話番号 5001 を使用してミーミー会議ブリッジにコールします。

	Calling Party	Calling Partition	Original Called Party	Original Called Partition	Final Called Party	Final Called Partition	Last Redirect Party	Last Redirect Partition	Duration
A	2001	Accounts	5001		b0019901001		b0019901001		70
B	2002	Accounts	5001		b0019901001		b0019901001		65
C	2003	Accounts	5001		b0019901001		b0019901001		80

モビリティ

Cisco Unified Communications Manager は次のモビリティ機能をサポートします。

- ハンドイン
- ハンドアウト
- 携帯電話ピックアップ
- 音声自動応答装置（IVR）

システムは、モビリティ機能を使用するすべてのコールに対して、標準の CDR を生成します。モビリティ機能によってコールが分割、リダイレクト、または結合されると、対応する **OnBehalfOf** コードには、モビリティ機能を指定する新しい値が表示されます。CAR Loader は、次の **OnBehalfOf** フィールドをチェックします。

- **origCallTerminationOnBehalfOf**
- **destCallTerminationOnBehalfOf**
- **origCalledPartyRedirectOnBehalfOf**
- **lastRedirectRedirectOnBehalfOf**
- **joinOnBehalfOf**

上記のいずれかの **OnBehalfOf** コードにモビリティコード 24 が含まれている場合、CDR には、CAR Loader が決定したモビリティコールタイプが記録されます。モビリティ機能には、ハンドイン（コード 303）、ハンドアウト（コード 319）、携帯電話ピックアップ（コード 335）、および IVR（コード 399）の 4 つの RedirectReason コードが適用されます。

モビリティの CDR の例

1. **モビリティ フォロー ミー**：デュアルモード電話には、会社の番号 22285 と携帯電話番号 9728324124 が付いています。22202 が 22285 をコールし、22285 と 9728324124 の両方で呼出音が鳴ります。携帯電話がコールに応答します。このフォローミーコールには、1 つの CDR が生成されます。通話時間は 80 秒間です。

フィールド名	フォローミーコールの CDR
globalCallID_callId	861
origLegCallIdentifier	22481077
destLegCallIdentifier	22481078
callingPartyNumber	22202
originalCalledPartyNumber	22285
finalCalledPartyNumber	9728324124
lastRedirectDn	22285
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
lastRedirectRedirectReason	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0
origTerminationOnBehalfOf	0
destTerminationOnBehalfOf	0
joinOnBehalfOf	0
duration	80

2. **モビリティ ハンドイン**：会社の番号 22285 と携帯電話番号 9728324124 を持つデュアルモード電話が携帯電話 9728324214 にコールします。39 秒間通話した後、デュアルモード電話は企業ネットワークに接続され、コールは携帯電話ネットワークから企業ネットワークに切り替えられます。さらに 15 秒間の通話が行われます。

フィールド名	携帯電話番号 9728324214 へのコールの CDR	企業へのハンドインコールの CDR
globalCallID_callId	864	864
origLegCallIdentifier	22481083	22481083
destLegCallIdentifier	22481085	22481087
callingPartyNumber	22202	22202
originalCalledPartyNumber	919728324124	22285

finalCalledPartyNumber	919728324124	22285
lastRedirectDn	919728324124	22285
origCause_Value	393216	0
dest_CauseValue	393216	16
lastRedirectRedirectReason	0	303
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	24
origTerminationOnBehalfOf	24	24
destTerminationOnBehalfOf	24	12
joinOnBehalfOf	0	24
duration	39	15

3. モビリティ ハンドアウト：デュアルモード電話には、会社の番号 22285 と携帯電話番号 9728324124 が付いています。ハンドアウト番号（H 番号）には 555123 が指定されています。会社の番号 22285 にコールが発信されます。21 秒間通話した後、デュアルモード電話は企業ネットワークから携帯電話ネットワークに渡されます。コールは、企業ネットワークから携帯電話ネットワーク（9728324124）に切り替えられます。さらに 39 秒間の通話が行われます。

フィールド名	22285 への企業 コールの CDR	携帯電話から H 番号へ のサーバコールの CDR	ハンドアウト コール CDR
globalCallID_callId	964	965	964
origLegCallIdentifier	22481083	22481095	22481093
destLegCallIdentifier	22481094	22481096	22481095
callingPartyNumber	22202	9728324124	22202
originalCalledPartyNumber	22285	555123	9728324124
finalCalledPartyNumber	22285	555123	9728324124
lastRedirectDn	22285	555123	9728324124
origCause_Value	393216	393216	0
dest_CauseValue	393216	393216	16
lastRedirectRedirectReason	0	0	319
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	24
origTerminationOnBehalfOf	24	24	24
destTerminationOnBehalfOf	24	24	12
joinOnBehalfOf	0	0	24
duration	21	0	39

4. **モビリティ携帯電話ピックアップ**: 会社の番号 22285 と携帯電話番号 9728324124 を持つデュアルモード電話が、会社の番号 22285 へのコールを確立します。40 秒間通話した後、**携帯電話ピックアップ**が起動されます。コールは会社の電話から携帯電話に切り替えられます。さらに 111 秒間の通話が行われます。

フィールド名	22285 への企業 コールの CDR	携帯電話へのサーバ コールの CDR	最終的なハンドアウト コールの CDR
globalCallID_callId	555	566	964
origLegCallIdentifier	22481111	22481222	22481111
destLegCallIdentifier	22481112	22481223	22481222
callingPartyNumber	22202	2202	22202
originalCalledPartyNumber	22285	22285	22285
finalCalledPartyNumber	22285	9728324124	22285
lastRedirectDn	22285	22285	22285
origCause_Value	393216	393216	0
dest_CauseValue	393216	393216	16
lastRedirectRedirectReason	0	0	415
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	24	24
origTerminationOnBehalfOf	24	24	24
destTerminationOnBehalfOf	24	24	12
joinOnBehalfOf	0	24	24
duration	40	0	111

5. **モビリティ IVR**: 文字列 DID#RemoteDest#TargetNum# を持つコールを Cisco Unified Communications Manager で着信します。コールは TargetNum にリダイレクトされます。9728131234 が IVR にコールし、データが収集されます。宛先には 812345 が指定され、コールは 812345 にリダイレクトされます。コールは、60 秒間接続されます。

フィールド名	リダイレクトされたコールの CDR
globalCallID_callId	12345
origLegCallIdentifier	16677100
destLegCallIdentifier	16677102
callingPartyNumber	9728131234
originalCalledPartyNumber	8005559876
finalCalledPartyNumber	812345
lastRedirectDn	8005559876
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
lastRedirectRedirectReason	399

lastRedirectRedirectOnBehalfOf	24
origTerminationOnBehalfOf	0
destTerminationOnBehalfOf	0
duration	60

通常のコール（Cisco Unified IP Phone から Cisco Unified IP Phone へ）

通常のコールでは、コールごとに3つのレコードが記録されます。つまり、CDRが1つと、CMRが各エンドポイントに1つずつ、計2つになります。CDRの[originalCalledPartyNumber]フィールドには、[finalCalledPartyNumber]フィールドと同じ電話番号が格納されます。

成功した通常のコールの CDR の例

2台のCisco Unified IP Phone間で成功したコールにより、コールの最後に1つのCDRが生成されます。

1. 発信者は、60秒でコールを終了します。発信者が電話を切ったため、[orig_CauseValue]には16（通常のクリア）が指定されます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
duration	60

2. 着信者が60秒でコールをクリアします。着信者が電話を切ったため、[dest1_CauseValue]には16（通常のクリア）が指定されます。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	2001
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309

lastRedirectDn	2309
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
duration	60

転送での元の発信者

この機能は、Cisco Unity または Cisco Unity Connection が開始したコール転送のコンサルト コールの発信者番号を変更します。コンサルト コールの CDR には、Cisco Unity または Cisco Unity Connection ポートが転送先にコールしているのではなく、元の発信者が転送先にコールしていることが示されます。

この機能は、Cisco Unified Communications Manager のサービス パラメータで設定する必要があります。詳細については、『*CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』の「Configuring CDR Service Parameters」を参照してください。

転送での元の発信者の CDR の例

4001 が 4002 にコールします。4002 がコールを 4003 に転送します。次の 3 つの CDR が生成されます。

- 最初の通話者間（4001 から 4002）のコール。
- 転送している通話者（4002）から最終転送先（4003）へのコンサルト コール。
- 転送された通話者（4001）から転送先（4003）へのコール。

表 1:

コール	CallingPartyNumber	originalCalledPartyNumber
1	4001	4002
2	4002	4003
3	4001	4003



(注) CDR には [originalCallingParty] フィールドは存在しません。

パーソナル アシスタント コール

この項では、次のパーソナル アシスタント コールについて説明します。

- 「パーソナル アシスタント ダイレクト コール」 (P.4-63)
- 「メディア ポートに入ってコールを転送するパーソナル アシスタント代行受信者」 (P.4-63)
- 「直接宛先に入るパーソナル アシスタント代行受信者」 (P.4-64)
- 「複数の宛先に入るパーソナル アシスタント代行受信者」 (P.4-65)
- 「パーソナル アシスタント会議」 (P.4-68)

パーソナル アシスタント ダイレクト コール

パーソナル アシスタント ダイレクト コールは、発信者からのブラインド転送コール タイプに似た動作をします。「発信者からのブラインド転送の CDR の例」(P.4-76) を参照してください。

パーソナル アシスタント ダイレクト コールの CDR の例

次の表に、以下に示すシナリオの CDR の例を示します。

- ユーザ A (2101) がパーソナル アシスタント ルート ポイント (2000) にコールし、「call User B (ユーザ B にコール)」と発声します。
- コールがユーザ B (2105) に転送されます。この例では、ユーザ B はルールを設定していません。



(注)

次の例で、2000 はパーソナル アシスタントに到達するためのメインのパーソナル アシスタント ルート ポイントを表し、21XX はパーソナル アシスタント 代行受信者 ルート ポイントを表し、2001 ~ 2004 はメディア ポートを表しています。

いずれの場合も、2101 は発信者番号を示します。

表 2:

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2101	16777217	PAManaged	16777219	2004	Phones	2000	1023970182	2000	Phones	34
2004	16777221	Phones	16777222	2105	PAManaged	2105	1023970182	2105	PAManaged	0
2101	16777217	PAManaged	16777222	2105	PAManaged	2105	1023970191	2105	PAManaged	5

メディア ポートに入ってコールを転送するパーソナル アシスタント 代行受信者

このシナリオは、発信者からのブラインド転送、および転送されたコールと同様に機能します。「発信者からのブラインド転送の CDR の例」(P.4-76) および「転送 (Forward) またはリダイレクトされたコール」(P.4-38) を参照してください。

メディア ポートに入ってコールを転送するパーソナル アシスタント 代行受信者の CDR の例

次の表に、以下に示すシナリオの CDR の例を示します。

- ユーザ A (2101) が 2105 をダイヤルします。
- パーソナル アシスタント 代行受信者 (21XX) がコールをピックアップし、メディア ポート (2002) にリダイレクトします。
- パーソナル アシスタントがルール (存在する場合) に従ってコールを処理し、コールを宛先 (2105) に転送します。この宛先には、ルールは設定されていません。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2002	16777234	Phones	16777285	2105	PAManaged	2105	1023970478	2105	PAManaged	2
2101	16777230	PAManaged	16777232	2002	PA	2105	1023970478	21xx	“ “	9
2105	16777235	PAManaged	16777230	2101	“ “	“ “	1023970483	“ “	“ “	5

直接宛先に入るパーソナル アシスタント代行受信者

このシナリオでは、ルールありとルールなしの2つのケースが考えられます。

ルールなしの宛先に直接入るパーソナル アシスタント代行受信者の CDR の例

次の表に、以下に示すシナリオの CDR の例を示します。

- ユーザ A (2101) が 2105 をダイヤルします。
- パーソナル アシスタント代行受信者 (21XX) がコールをピックアップし、ルール (存在する場合) に従ってそのコールを処理し、宛先 (2105) にリダイレクトします。

次の表に、以下に示すシナリオの CDR の例を示します。

Calling Party Number	OrigLeg Call Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Number	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Number	Original Called Party Number Partition	Last Redirect DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2101	16777240	PAManaged	16777242	2105	PA	2105	1023970710	21XX	“ “	8

ルールありの宛先に直接入って別の宛先にコールを転送するパーソナル アシスタントの CDR の例

次の表に、以下に示すシナリオの CDR の例を示します。

- ユーザ A (2101) が 2105 をダイヤルします。
- パーソナル アシスタント代行受信者 (21XX) がコールをピックアップし、ルールに従ってそのコールを処理します。
- パーソナル アシスタントは次にコールを最終的な宛先 (2110) にリダイレクトします。このケースでは、2105 には内線 2110 にコールを転送するルールが設定されています。

Calling Party Number	OrigLeg Call Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Number	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Number	Original Called Party Number Partition	Last Redirect DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2101	16777240	PAManaged	16777242	2110	PA	2105	1023970710	21XX	“ “	8

複数の宛先に入るパーソナル アシスタント代行受信者

このシナリオでは、いくつかのケースが考えられます。どのケースでも、ユーザ B (2105) は内線 2110 または 2120 に到達するようにルールを設定しています。このルールは、発信者がパーソナル アシスタント ルート ポイント (2000) をコールして「call User B (ユーザ B にコール)」と発声するか (ダイレクト ケース)、または発信者がユーザ B (2105) を直接ダイヤルすると (代行受信者ケース)、アクティブになります。

複数の宛先に入るパーソナル アシスタント代行受信者の CDR の例

ここでは、各ケースの例を示します。次の表に、各シナリオの CDR の例を示します。

- 「パーソナル アシスタント ダイレクトでの複数の宛先 : 2110 および 2120 (最初の宛先でコールが受け入れられるケース)」 (P.4-65)
- 「パーソナル アシスタント ダイレクトでの複数の宛先 : 2110 および 2120 (2 番目の宛先でコールが受け入れられるケース)」 (P.4-66)
- 「パーソナル アシスタント ダイレクトでの複数の宛先 : 2110 および 2120 (3 番目の宛先でコールが受け入れるケース)」 (P.4-66)
- 「パーソナル アシスタント インターセプトでの複数の宛先 : 2110 および 2120 (最初の宛先でコールが受け入れられるケース)」 (P.4-66)
- 「パーソナル アシスタント インターセプトでの複数の宛先 : 2110 および 2120 (2 番目の宛先でコールが受け入れられるケース)」 (P.4-67)
- 「パーソナル アシスタント インターセプトでの複数の宛先 : 2110 および 2120 (3 番目の宛先でコールが受け入れられるケース)」 (P.4-67)

パーソナル アシスタント ダイレクトでの複数の宛先 : 2110 および 2120 (最初の宛先でコールが受け入れられるケース)

- ユーザ A がパーソナル アシスタントにコールし、「call User B (ユーザ B にコール)」と発声します。
- ユーザ B が内線 2110 でコールに応答します。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2004	16777262	Phones	16777263	2110	PAManaged	2110	1023971303	2110	PAManaged	6
2101	16777258	PAManaged	16777260	2004	Phones	2000	1023971303	2000	Phones	22
2110	16777263	PAManaged	16777258	2101	“ “	“ “	1023971312	“ “	“ “	9

パーソナル アシスタント ダイレクトでの複数の宛先 : 2110 および 2120 (2 番目の宛先でコールが受け入れられるケース)

- ユーザ A がパーソナル アシスタントにコールし、「call User B (ユーザ B にコール)」と発声します。
- ユーザ B が内線 2120 でコールに応答します。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2001	16777269	Phones	16777270	2110	PAManaged	2110	1023971456	2110	PAManaged	0
2001	16777272	Phones	16777273	2120	PAManaged	2120	1023971467	2120	PAManaged	4
2101	16777265	PAManaged	16777267	2001	Phones	2000	1023971467	2000	Phones	37
2120	16777273	PAManaged	16777265	2101	“ “	“ “	1023971474	“ “	“ “	7
2110	16777275	PAManaged	0	“ “	“ “	“ “	1023971476	“ “	“ “	0

パーソナル アシスタント ダイレクトでの複数の宛先 : 2110 および 2120 (3 番目の宛先でコールが受け入れるケース)

- ユーザ A がパーソナル アシスタントにコールし、「call User B (ユーザ B にコール)」と発声します。
- ユーザ B は、2110 でも 2120 でも応答しません。
- パーソナル アシスタントはコールを元の宛先 (2105) に転送し、ユーザ B がその内線で応答します。



(注)

このケースでは、2105 (元の宛先) が 3 番目の宛先となります。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2002	16777281	Phones	16777282	2110	PAManaged	2110	1023971602	2110	PAManaged	0
2002	16777284	Phones	16777285	2120	PAManaged	2120	1023971615	2120	PAManaged	0
2101	16777277	PAManaged	16777279	2002	Phones	2000	1023971619	2000	Phones	38
2002	16777287	Phones	16777288	2105	PAManaged	2105	1023971619	2105	PAManaged	0
2101	16777277	PAManaged	16777288	2105	PAManaged	2105	1023971627	2105	PAManaged	7
2105	16777289	PAManaged	0	“ “	“ “	“ “	1023971629	“ “	“ “	0

パーソナル アシスタント インターセプトでの複数の宛先 : 2110 および 2120 (最初の宛先でコールが受け入れられるケース)

- ユーザ A がパーソナル アシスタントにコールし、「call User B (ユーザ B にコール)」と発声します。
- ユーザ B が内線 2110 でコールに応答します。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2003	16777295	Phones	16777296	2110	PAManaged	2110	1023971740	2110	PAManaged	4
2101	16777291	PAManaged	16777293	2003	PA	2105	1023971740	21XX	“ “	10
2110	16777296	PAManaged	16777291	2101	“ “	“ “	1023971749	“ “	“ “	9

パーソナル アシスタント インターセプトでの複数の宛先 : 2110 および 2120 (2 番目の宛先でコールが受け入れられるケース)

- ユーザ A がパーソナル アシスタントにコールし、「call User B (ユーザ B にコール)」と発声します。
- ユーザ B が内線 2120 でコールに応答します。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2004	16777302	Phones	16777303	2110	PAManaged	2110	1023971815	2110	PAManaged	0
2004	16777305	Phones	16777306	2120	PAManaged	2120	1023971824	2120	PAManaged	3
2101	16777298	PAManaged	16777300	2004	PA	2105	1023971824	21XX	“ “	22
2120	16777306	PAManaged	16777298	2101	“ “	“ “	1023971832	“ “	“ “	8

パーソナル アシスタント インターセプトでの複数の宛先 : 2110 および 2120 (3 番目の宛先でコールが受け入れられるケース)

- ユーザ A がパーソナル アシスタントにコールし、「call User B (ユーザ B にコール)」と発声します。
- ユーザ B は、2110 でも 2120 でも応答しません。
- パーソナル アシスタントはコールを元の宛先 (2105) に転送し、ユーザ B が応答します。



(注) このケースでは、2110 (元の宛先) が 3 番目の宛先となります。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition	Original Called Party Num	Original Called Party Number Partition	Last Redir DN	Last Redirect DN Partition	Duration (secs)
2001	16777312	Phones	16777313	2110	PAManaged	2110	1023971923	2110	PAManaged	0
2001	16777315	Phones	16777316	2120	PAManaged	2120	1023971936	2120	PAManaged	0
2101	16777308	PAManaged	16777310	2001	PA	2105	1023971940	21XX	“ “	30
2001	16777318	Phones	16777319	2105	PAManaged	2105	1023971940	2105	PAManaged	0
2101	16777308	PAManaged	16777319	2105	PAManaged	2105	1023971953	2105	PAManaged	12

パーソナル アシスタント会議

パーソナル アシスタント会議は、アドホック電話会議タイプと同様に動作します。詳細については、「電話会議」(P.4-29) を参照してください。

パーソナル アシスタント会議の CDR の例

次の表に、以下に示すシナリオの CDR の例を示します。

- ユーザ A がパーソナル アシスタント ルート ポイント (2000) をコールし、「conference User B (2105) and User (2110) (ユーザ B (2105) およびユーザ C (2110) と会議)」と発声します。
- パーソナル アシスタントは、ユーザ B とユーザ C をユーザ A の会議に追加します。

Calling Party Num	Orig LegCall Identifier	Calling Party Number Partition	DestLeg Identifier	Final Called Party Num	Final Called Party Number Partition
2003	16777345	Phones	16777346	2105	PAManaged
2101	16777340	PAManaged	16777342	2003	Phones
2003	16777350	Phones	16777351	2002	PAManaged
2003	16777342	Phones	16777347	2110	“ “
2110	16777351	PAManaged	16777352	b00110201001	“ “
2105	16777346	PAManaged	16777349	b00110201001	“ “
2101	16777340	PAManaged	16777348	b00110201001	“ “

この表には、次の追加情報があります。

Original Called Party Number	Original Called Party Number Partition	Last Redirect DN	Last Redirect DN Partition	Duration (seconds)
2105	1023972575	2105	PAManaged	6
2000	1023972576	2003	Phones	62
2110	1023972595	2110	PAManaged	39
b00110201001	1023972601	b00110201001	“ “	25
b00110201001	1023972609	b00110201001	“ “	14
b00110201001	1023972610	b00110201001	“ “	34
b00110201001	1023972610	b00110201001	“ “	34

優先コール (MLPP)

優先コールは、CDR に優先レベル フィールドが設定されている場合を除き、他のコールと同じように実行されます。また、より優先レベルの高いコールが他のコールよりも優先されると、原因コードにはプリエンプションが理由として指定されます。

優先コールの CDR の例

1. 優先パターン (優先レベル 2) をダイヤルすることによって、別の IP Phone へのコールが発生します。

フィールド名	優先コールの CDR
globalCallID_callId	100
origLegCallIdentifier	12345
destLegCallIdentifier	12346
callingPartyNumber	2001
origCalledPartyNumber	826001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origPrecedenceLevel	2
destPrecedenceLevel	2

2. 別のネットワーク (優先レベル 1) から優先コールを受信します。

フィールド名	優先コールの CDR
globalCallID_callId	102
origLegCallIdentifier	11111
destLegCallIdentifier	11112
callingPartyNumber	9728552001
origCalledPartyNumber	6001
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
origPrecedenceLevel	1
destPrecedenceLevel	1

3. より優先レベルの高いコールが優先されます。

フィールド名	元のコールの CDR	レベルの高いコールの CDR
globalCallID_callId	10000	10001
origLegCallIdentifier	12345678	12345680

destLegCallIdentifier	12345679	12345681
callingPartyNumber	2001	9728551234
origCalledPartyNumber	826001	826001
origCause_Value	0	0
dest_CauseValue	9	16
origPrecedenceLevel	2	1
destPrecedenceLevel	2	1

リダイレクション (3xx) コール

次の例は、リダイレクション機能 (3xx) の CDR を示しています。

コールがリダイレクション機能 (3xx) によってリダイレクトされると、[origCalledPartyRedirectOnBehalfOf] フィールドと [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドには Unified CM リダイレクションを示す 19 が指定されます。[origCalledPartyRedirectReason] フィールドおよび [lastRedirectRedirectReason] フィールドには、リダイレクションを示す 162 が指定されます。

リダイレクション (3xx) の CDR の例

SIP 電話機 10010 (Cisco Unified Communications Manager に登録済み) 上で宛先を 10000 とした CFA をアクティブにします。35010 が 10010 をコールし、これが 10000 への CFA となります。コールは 10010 から 10000 にリダイレクトされます。10000 がコールに応答し、1 分間通話します。

フィールド名	元のコールの CDR
globalCallID_callId	11
origLegCallIdentifier	21832023
destLegCallIdentifier	21832026
callingPartyNumber	35010
originalCalledPartyNumber	10010
finalCalledPartyNumber	10000
lastRedirectDn	10010
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origCalledPartyRedirectReason	162
lastRedirectRedirectReason	162
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	19
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	19
origTerminationOnBehalfOf	0
destTerminationOnBehalfOf	12
joinOnBehalfOf	19
duration	60

Refer コール

Replace 指定の Refer の例については、「[Replace コール](#)」(P.4-71) を参照してください。

Replace コール

次の例は、さまざまなタイプの Replace コールの CDR を示しています。

Replace の CDR の例

- 1. Replace 指定の Invite** : SIP 電話機 35010 が、SIP 電話機 35020 にコールします。35010 で転送ボタンが押され、コールが SCCP 電話機 3000 に発信されて、3000 がコールに応答します。その後、電話機 35010 が転送を完了します。最終的に転送されたコールは、35020 と 3000 の間で発生します。



(注) 転送が完了すると、システムは Replace 指定の Invite を Cisco Unified Communications Manager に送信します。

フィールド名	元のコールの CDR	復帰したコールの CDR
globalCallID_callId	5045247	5045248
origLegCallIdentifier	21822467	21822469
destLegCallIdentifier	21822468	21822468
callingPartyNumber	35010	35020
originalCalledPartyNumber	3000	3000
finalCalledPartyNumber	3000	3000
lastRedirectDn	3000	35010
origCause_Value	393216	0
dest_CauseValue	393216	16
origCalledPartyRedirectReason	0	0
lastRedirectRedirectReason	0	146
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	18
origTerminationOnBehalfOf	18	0
destTerminationOnBehalfOf	18	12
joinOnBehalfOf	0	18
duration	5	60

- 2. Replace 指定の Refer** : SIP 電話機 35010 が SCCP 3000 にコールし、35010 で転送ボタンが押され、コールが SCCP 3001 に発信されます。3001 がコールに応答し、その後、電話機 35010 が転送を完了します。最終的に転送されたコールは、3000 と 3001 の間で発生します。



(注) 転送が完了すると、Replace 指定の Refer が Cisco Unified Communications Manager に送信されます。

フィールド名	元のコールの CDR	コンサルト コールの CDR	最終的に転送され たコールの CDR
globalCallID_callId	5045245	5045246	5045245
origLegCallIdentifier	21822461	21822463	21822462
destLegCallIdentifier	21822462	21822464	21822464
callingPartyNumber	35010	35010	3000
originalCalledPartyNumber	3000	3001	3001
finalCalledPartyNumber	3000	3001	3001
lastRedirectDn	3000	3001	35010
origCause_Value	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	393216	0
origCalledPartyRedirectReason	0	0	130
lastRedirectRedirectReason	0	0	146
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0	0	17
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	18
origTerminationOnBehalfOf	17	18	12
destTerminationOnBehalfOf	17	18	17
joinOnBehalfOf	0	0	18
duration	25	4	25

RSVP

次に示すフィールドは、コールの RSVP 予約のステータスを識別します。Cisco Unified Communications Manager RSVP CDR ステータス フィールドの値は連結され、コールの最後の 32 個のステータス値が保持されます。

たとえば、コールが「オプション」ポリシーで確立され、最初の RSVP 予約が成功し、その後に帯域予約が失われて、コールの途中で数回の再試行後に帯域予約が回復すると、コールは RSVP 予約が成功した状態で終了します。CDR は、この特定のストリームに関する Unified Communication RSVP 予約ステータスとして、「2:5:2:5:2:5:2」(success:lost_bw:success:lost_bw:success:lost_bw:success) という文字列を示します。

RSVP コール の CDR の例

1. 次の例では、コールが「オプション」ポリシーで確立され、最初の RSVP 予約が成功します。通話時間は 5 分です。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	300
origLegCallIdentifier	16777300
destLegCallIdentifier	16777301
callingPartyNumber	20000

origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origDTMFMethod	2
destDTMFMethod	2
duration	300

2. 次の例では、コールが「オプション」ポリシーで確立され、最初の RSVP 予約が成功します。その後、その帯域予約は失われますが、再試行後に回復します。通話時間は 1 分です。

フィールド名	CDR
globalCallID_callId	301
origLegCallIdentifier	16777302
destLegCallIdentifier	16777303
callingPartyNumber	20000
origCalledPartyNumber	20001
finalCalledPartyNumber	20001
lastRedirectDn	20001
origCause_Value	0
dest_CauseValue	16
origDTMFMethod	2:5:2
destDTMFMethod	2:5:2
duration	60

セキュアなミートミー会議

次の例は、セキュアなミートミー会議の CDR を示しています。35010 がセキュアなミートミー会議にコールしますが、35010 は非セキュアな電話機です。35010 がミートミー会議の最低セキュリティレベルを満たしていないため、コールは原因コード 58（ミートミー会議の最低セキュリティレベルが満たされていない）でクリアされます。

セキュアなミートミー会議の CDR の例

フィールド名	ミートミー会議へのコールの CDR
globalCallID_callId	5045247
origLegCallIdentifier	123456879

destLegCallIdentifier	123456999
callingPartyNumber	35010
originalCalledPartyNumber	50000
finalCalledPartyNumber	50000
lastRedirectDn	50000
origCause_Value	58
dest_CauseValue	0
origCalledPartyRedirectReason	0
lastRedirectRedirectReason	0
origCalledPartyRedirectOnBehalfOf	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0
origTerminationOnBehalfOf	6
destTerminationOnBehalfOf	6

ショート コール

[CdrLogCallsWithZeroDurationFlag] が True に設定され、接続時間が 1 秒未満のショート コールは、CDR に接続時間ゼロのコールとして表示されます。コールの実際の接続時間を示す [DateTimeConnect] フィールドは、失敗したコールとこれらのコールを区別します。失敗した（接続していない）コールの場合、この値はゼロになります。

ショート コールの CDR の例

次の表に、接続時間 1 秒未満で着信者がクリアした、オン ネット コールの成功例を示します。

Calling Party	Calling Partition	Original Called Party	Original Called Partition	Orig Cause	Dest Cause	DateTime Connect	Duration
2001	Accounts	2309	Marketing	0	16	973795815	0

[CallingPartyNumber] フィールドに URL を含む SIP コール

発信側と着信側で、内線番号が URL の SIP コールを設定できます。内線番号には、すべて印刷可能な ASCII 文字を使用できます。URL にスペースを入れることはできません。たとえば、内線「1000 1001」は有効な URL として認められません。



(注) 印刷可能な ASCII 文字は、33 ～ 126 の ASCII コード（10 進表記）の文字を表します。

[CallingPartyNumber] フィールドに URL を含む SIP コールの CDR の例

Cisco Unified Communications Manager の SIP トランクが着信コールを受信します。このコールには、[callingPartyNumber] に SIP URL が含まれています。

フィールド名	値
globalCallID_callId	1
origLegCallIdentifier	100
destLegCallIdentifier	101
callingPartyNumber	bob@abc.com
originalCalledPartyNumber	2309
finalCalledPartyNumber	2309
lastRedirectDn	2309
origCause_Value	16
dest_CauseValue	0
duration	60

成功したオン ネット コール

2 台の Cisco Unified IP Phone 間で成功したコールにより、コールの最後に 1 つの CDR が生成されます。

成功したオン ネット コールの CDR の例

次の表に、2 つの例を示します。

- A : 発信者が終了する 60 秒コール
- B : 着信者がクリアする 60 秒コール

	Calling Party	Calling Partition	Original Called Party	Original Called Partition	Orig Cause	Dest Cause	Duration
A	2001	Accounts	2309	Marketing	16	0	60
B	2001	Accounts	2309	Marketing	0	16	60

転送されたコール

転送されたコールによって、複数の CDR が生成されます。元のコールに 1 つ、コンサルト コールに 1 つ、および最終的に転送されたコールに 1 つの CDR が存在します。

元のコールについては、[origCause_value] と [destCause_value] に、コールが分割されたことを示す値 (分割 = 393216) が設定されます。[origCallTerminationOnBehalfOf] フィールドと [destCallTerminationOnBehalfOf] フィールドには、このコールが転送に関係したことを示す値 (転送 = 10) が設定されます。

コンサルト コールについては、[origCause_value] フィールドと [destCause_value] フィールドに、コールが分割されたことを示す値 (分割 = 393216) が設定されます。[origCallTerminationOnBehalfOf] フィールドと [destCallTerminationOnBehalfOf] フィールドには、このコールが転送に関係したことを示す値 (転送 = 10) が設定されます。

最終的に転送されたコールに対する [joinOnBehalfOf] フィールドには、このコールが転送の結果として発生したことを示す値 (転送 = 10) が設定されます。

転送されたコールの CDR の例

次の例は、すべてを網羅しているわけではありませんが、上記のような状況で生成されるレコードを示しています。これらの例は、転送されたコールに対してどのようなレコードが生成されるかを理解するのに役立ちます。

発信者からのブラインド転送の CDR の例

内線 2001 から PSTN 番号にコールが発信され、120 秒間通話します。2001 が 2002 へのブラインド転送を開始します。**CDR 1** (元のコール) は、内線 2001 から PSTN 番号へのコールを示しています。通話時間は 120 秒です。**CDR 2** (コンサルトコール) は、2001 から内線 2002 へのコールを示しています。**CDR 3** は、最終的に転送されたコールを示しており、2001 は転送を完了し、コールから抜け、PSTN と 2002 の間のコールを残します。

フィールド名	元のコールの CDR	コンサルトコールの CDR	最終的に転送された CDR
globalCallID_callId	1	2	1
origLegCallIdentifier	101	103	102
destLegCallIdentifier	102	104	104
callingPartyNumber	2001	2001	3071111
originalCalledPartyNumber	3071111	2002	2002
finalCalledPartyNumber	3071111	2002	2002
lastRedirectDn	3071111	2002	2001
origCause_Value	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	393216	0
origTerminationOnBehalfOf	10	10	0
destTerminationOnBehalfOf	10	10	0
joinOnBehalfOf	0	0	10
duration	120	0	360

発信者からのコンサルト転送の CDR の例

内線 2001 から PSTN 番号にコールが発信され、60 秒間通話します。2001 が 2002 へのコンサルト転送を開始し、10 秒間通話してから転送を完了します。最終的に転送されたコールの通話時間は 360 秒です。**CDR 1** (元のコール) は、内線 2001 から PSTN 番号へのコールを示しています。通話時間は 60 秒です。**CDR 2** (コンサルトコール) は、2001 から内線 2002 へのコールを示しています。通話時間は 10 秒です。**CDR 3** は、最終的に転送されたコールを示しており、2001 は転送を完了し、コールから抜け、PSTN と 2002 の間のコールを残します。

フィールド名	元のコールの CDR	コンサルトコールの CDR	最終的に転送されたコールの CDR
globalCallID_callId	1	2	1
origLegCallIdentifier	111	113	112
destLegCallIdentifier	112	114	114
callingPartyNumber	2001	2001	3071111

originalCalledPartyNumber	3071111	2002	2002
finalCalledPartyNumber	3071111	2002	2002
lastRedirectDn	50001	50001	2001
origCause_Value	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	393216	0
origTerminationOnBehalfOf	10	10	0
destTerminationOnBehalfOf	10	10	0
joinOnBehalfOf	0	0	10
duration	60	10	360

着信者からのブラインド転送の CDR の例

50000 から 50001 にコールが発信されます。通話時間は 120 秒です。50001 が 50002 へのブラインド転送を開始します。**CDR 1** (元のコール) は、内線 50001 から 50002 へのコールを示しています。通話時間は 120 秒です。**CDR 2** (コンサルト コール) は、50001 から内線 50002 へのコールを示しています。**CDR 3** は、最終的に転送されたコールであり、50001 は転送を完了し、コールから抜け、50000 と 50002 の間のコールを残します。

フィールド名	元のコールの CDR	コンサルト コールの CDR	最終的に転送されたコールの CDR
globalCallID_callId	1	2	1
origLegCallIdentifier	200	202	200
destLegCallIdentifier	201	203	203
callingPartyNumber	50000	50001	50000
originalCalledPartyNumber	50001	50002	50002
finalCalledPartyNumber	50001	50002	50002
lastRedirectDn	50001	50001	50001
origCause_Value	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	393216	0
origTerminationOnBehalfOf	10	10	0
destTerminationOnBehalfOf	10	10	0
joinOnBehalfOf	0	0	10
duration	120	0	360

着信者からのコンサルト転送の CDR の例

50000 から 50001 にコールが発信されます。通話時間は 120 秒です。50000 が 50002 へのブラインド転送を開始します。**CDR 1** (元のコール) は、内線 50000 から 50001 へのコールを示しています。通話時間は 120 秒です。**CDR 2** (コンサルトコール) は、50000 から内線 50002 へのコールを示しています。**CDR 3** は、最終的に転送されたコールであり、50000 は転送を完了し、コールから抜け、50001 と 50002 の間のコールを残します。

フィールド名	元のコールの CDR	コンサルトコールの CDR	最終的に転送されたコールの CDR
globalCallID_callId	1	2	1
origLegCallIdentifier	200	202	201
destLegCallIdentifier	201	203	203
callingPartyNumber	50000	50001	50000
originalCalledPartyNumber	50001	50002	50002
finalCalledPartyNumber	50001	50002	50002
lastRedirectDn	50001	50001	50001
origCause_Value	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	393216	0
origTerminationOnBehalfOf	10	10	0
destTerminationOnBehalfOf	10	10	0
joinOnBehalfOf	0	0	10
duration	120	0	360

ビデオ コール

次に、ビデオ コールの CDR の例を示します。

ビデオ コールの CDR の例

発信者 51234 が着信者 57890 にコールします。次の例では、100 = H.261、187962284 = 172.19.52.11、288625580 = 172.19.52.17、320 = 320K、および 2 = QCIF とします。

フィールド名	ビデオ コールの CDR
globalCallID_callId	121
origLegCallIdentifier	101
destLegCallIdentifier	102
callingPartyNumber	51234
origCalledPartyNumber	57890
finalCalledPartyNumber	57890
lastRedirectDn	57890
origCause_Value	0

dest_CauseValue	16
origVideoCap_Codec	100
origVideoCap_Bandwidth	320
origVideoCap_Resolution	2
origVideoTransportAddress_IP	187962284
origVideoTransportAddress_Port	49208
destVideoCap_Codec	100
destVideoCap_Bandwidth	320
destVideoCap_Resolution	2
destVideoTransportAddress_IP	288625580
destVideoTransportAddress_Port	49254

ビデオ会議コール

ビデオ会議の一部であるコールには、複数のレコードが記録されます。生成される CDR レコードの数は、ビデオ会議内の通話者の数によって異なります。CDR レコードは、ビデオ会議内の各通話者に 1 つ、最初に発信されたコールに 1 つ、他の通話者をビデオ会議に参加させるために使用した各セットアップ コールごとに 1 つ、およびビデオ会議に接続している最後の通話者 2 人に 1 つ存在します。

したがって、3 者間のアドホック ビデオ会議には、次の 6 つの CDR レコードが存在します。

- 元のコールに 1 つのレコード
- 会議に接続している通話者に 3 つのレコード
- 各セットアップ コールごとに 1 つのレコード
- 会議に残った最後の通話者 2 人に 1 つのレコード。

発信コール レッグ ID と着信コール レッグ ID を確認することによって、セットアップ コールを会議内の適切なコール レッグに関連付けることができます。

会議ブリッジ デバイスは、Cisco Unified Communications Manager にとって特別な意味があり、会議ブリッジへのコールは会議ブリッジ デバイスへのコールとして表示されます。「b0019901001」という形式の特殊な番号が、会議ブリッジ ポートを示しています。

会議ブリッジへのコールと会議ブリッジからのコールはすべて、実際の方向に関係なく、会議ブリッジへのコールとして表示されます。セットアップ コールの CDR レコードを確認することによって、各コールの元の方向を判断できます。

会議コントローラ情報は、CDR の [comment] フィールドで確認できます。この情報の形式は、次のとおりです。

[Comment] フィールド = "ConfControllerDn=1000;ConfControllerDeviceName=SEP0003"

- 会議コントローラの DN と会議コントローラのデバイス名によって、会議コントローラが一意に識別されます。シェアド ラインの場合は、デバイス名が必要です。
- コールが複数の電話会議に関係している場合、[comment] フィールドには複数の会議コントローラの情報が格納されます。会議に残った通話者が 2 人になり、うち 1 人が別の会議を始めた場合には、[comment] フィールドの最後の会議コントローラ情報によって会議コントローラが識別されます。

会議に接続されたコール レッグには、次のフィールド情報が設定されます。

- [finalCalledPartyNumber] フィールドには、会議ブリッジ番号「b0019901001」が格納されます。
- [origCalledPtyRedirectOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す 4 が設定されます。
- [lastRedirectRedirectOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す 4 が設定されます。
- [joinOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す 4 が設定されます。
- [Comment] フィールドは、会議コントローラを識別します。
- [destConversationId] フィールドは、会議内のすべてのメンバーに対して同一です。このフィールドを使用して、電話会議のメンバーを識別できます。

最初に発信されたコールと、通話者を会議に参加させるために使用したすべてのセットアップ コールには、次のフィールドが設定されます。

- [origCallTerminationOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す 4 が設定されます。
- [destCallTerminationOnBehalfOf] フィールドには、会議を示す 4 が設定されます。

ビデオ会議コールの CDR の例

1. 2001 から 2309 にコールします。2309 が応答し、60 秒間通話します。
2. 2001 が [Conference] ソフトキーを押し、3071111 をダイヤルします。
3. 3071111 が応答し、20 秒間通話します。2001 が [Conference] ソフトキーを押して会議を完了します。
4. 会議の 3 人のメンバーが 360 秒間通話します。
5. 3071111 が電話を切り、2001 と 2309 は会議に残ります。会議に残った参加者が 2 人だけになったため、会議機能によってこの 2 人は直接結合され、さらに 55 秒間通話します。



(注)

コールを会議ブリッジに展開する各ビデオ会議コール レッグが表示されます。このコールは、コールの実際の方向に関係なく、ブリッジへのコールとして表示されます。

フィールド名	元のコールの CDR	セットアップ コールの CDR	会議の CDR 1	会議の CDR 2	会議の CDR 3	最終 CDR
globalCallID_callId	1	2	1	1		1
origLegCallIdentifier	101	105	101	102	106	101
destLegCallIdentifier	102	106	115	116	117	102
callingPartyNumber	2001	2001	2001	2309	3071111	2001
originalCalledPartyNumber	2309	3071111	b0029901001	b0029901001	b0029901001	2309
finalCalledPartyNumber	2309	3071111	b0029901001	b0029901001	b0029901001	2309
lastRedirectDn	2001	3071111	b0029901001	b0029901001	b0029901001	b0029901001
origCause_Value	393216	0	16	393216	393216	16
dest_CauseValue	393216	0	393216	393216	393216	0
origVideoCap_Codec	103	103	103	103	103	103
origVideoCap_Bandwidth	320	320	320	320	320	320
origVideoCap_Resolution	0	0	0	0	0	0

フィールド名	元のコールの CDR	セットアップ コール の CDR	会議の CDR 1	会議の CDR 2	会議の CDR 3	最終 CDR
origVideoTransportAddress_IP	552953152	552953152	552953152	-822647488	-945658560	552953152
origVideoTransportAddress_Port	5445	5445	5445	5445	5445	5445
destVideoCap_Codec	103	103	103	103	103	103
destVideoCap_Bandwidth	320	320	320	320	320	320
destVideoCap_Resolution	0	0	0	0	0	0
destVideoTransportAddress_IP	-822647488	-945658560	-666216182	-666216182	-666216182	-822647488
destVideoTransportAddress_Port	5445	10002	10000	10004	10001	5445
origCalledPartyRedirectReason	0	0	0	0	0	0
lastRedirectRedirectReason	0	0	0	0	0	98
origTerminationOnBehalfOf	4	4	12	12	4	12
destTerminationOnBehalfOf	4	4	0	0	4	4
origCalledRedirectOnBehalfOf	0	0	4	4	4	0
lastRedirectRedirectOnBehalfOf	0	0	4	4	4	4
joinOnBehalfOf	0	0	4	4	4	4
Conversation ID	0	1		1	1	0
duration	60	360		360	360	55

Comment

元のコールの CDR	
セットアップ コール の CDR	ConfControllerDn=2001;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD
会議の CDR 1	ConfControllerDn=2001;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD
会議の CDR 2	ConfControllerDn=2001;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD
会議の CDR 3	ConfControllerDn=2001;ConfControlerDeviceName=SEP0003E333FEBD
最終 CDR	

関連項目

- [第 5 章「Cisco 呼詳細レコードのフィールドの説明」](#)
- [第 6 章「Cisco 呼詳細レコードのコード」](#)
- [第 10 章「Cisco 呼管理レコードの例」](#)

関連資料

次のマニュアルには、CDR に関する詳細情報が記載されています。

- 『*Cisco Unified Serviceability Administration Guide*』
- 『*CDR Analysis and Reporting Administration Guide*』